

ヒトE S細胞の樹立に関する指針（平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号） 新旧対照表

- ・傍線部分は改正部分
- ・旧指針網掛け部分は参考として掲載

<p>【新】ヒトE S細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p>【旧】ヒトE S細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>ヒトE S細胞の樹立に関する指針</p> <p>目次</p> <p>第一章 総則 (第一条 第三条)</p> <p>第二章 樹立の要件 (第四条)</p> <p> [節を削る。]</p> <p> [節を削る。]</p> <p> [節を削る。]</p> <p>第三章 樹立の体制 (第五条 第八条)</p> <p> [節を削る。]</p> <p> [節を削る。]</p> <p> [節を削る。]</p> <p>第四章 樹立の手続 (第九条 第十五条)</p> <p> [節を削る。]</p> <p> [節を削る。]</p> <p>第五章 ヒト受精胚の提供 (第十六条 第二十一条)</p> <p>第六章 ヒトE S細胞の分配 (第二十二条・第二十三条)</p> <p>第七章 人クローン胚使用樹立 (第二十四条 第三十七条)</p> <p>第八章 雑則 (第三十八条・第三十九条)</p>	<p>ヒトE S細胞の樹立に関する指針</p> <p>目次</p> <p>第一章 総則 (第一条 第五条)</p> <p>第二章 ヒトE S細胞の樹立等</p> <p> <u>第一節</u> 樹立の要件等 (第六条 第八条)</p> <p> <u>第二節</u> 樹立等の体制 (第九条 第十三条)</p> <p> <u>第三節</u> 樹立の手続 (第十四条 第二十一条)</p> <p>第三章 ヒトE S細胞の樹立に必要なヒト受精胚等の提供</p> <p> <u>第一節</u> 第一種樹立に必要なヒト受精胚の提供 (第二十二条 第二十七条)</p> <p> <u>第二節</u> 第二種樹立に必要な未受精卵等の提供 (第二十八条 第三十三条)</p> <p> <u>第三節</u> 第二種樹立に必要なヒトの体細胞の提供 (第三十四条 第三十九条)</p> <p>第四章 ヒトE S細胞の分配</p> <p> <u>第一節</u> 分配の要件 (第四十条 第四十二条)</p> <p> <u>第二節</u> 海外使用機関に対する分配 (第四十三条・第四十四条)</p> <p>[章を加える。]</p> <p>[章を加える。]</p> <p>[章を加える。]</p> <p><u>第五章</u> 雑則 (第四十五条 第四十七条)</p> <p><u>附則</u></p>
<p>第一章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>第一条 この指針は、ヒトE S細胞が、医学及び生物学の発展に大きく貢献する可能性がある一方で、人の生命の萌芽であるヒト胚を滅失して樹立されたものであり、また、全ての細胞に分化する可能性があることに鑑み、ヒトE S細胞の樹立に関し、人の尊厳を侵すことのないよう、生命倫理上の観点から遵守すべき基本的な事項を定め、もってその適正な実施の確保に資することを目的とする。</p>	<p>第一章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>第一条 この指針は、ヒトE S細胞が、医学及び生物学の発展に大きく貢献する可能性がある一方で、人の生命の萌芽であるヒト胚を使用すること、ヒトE S細胞が、ヒト胚を滅失して樹立されたものであり、また、全ての細胞に分化する可能性があること等の生命倫理上の問題を有することに鑑み、ヒトE S細胞の取扱いにおいて、人の尊厳を侵すことのないよう、生命倫理上の観点から遵守すべき基本的な事項を定め、もってその適正な実施の確保を図ることを目的とする。</p>
<p>(定義)</p> <p>第二条 この指針において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p>	<p>(定義)</p> <p>第二条 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>一 胚 ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第百四十六号。以下「法」という。）第二条第一項第一号に規定する胚をいう。</p>	<p>一 胚 ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第百四十六号。以下「法」という。）第二条第一項第一号に規定する胚をいう。</p>
<p>二 ヒト胚 ヒトの胚（ヒトとしての遺伝情報を有する胚を含む。）をいう。</p>	<p>二 ヒト胚 ヒトの胚（ヒトとしての遺伝情報を有する胚を含む。）をいう。</p>
<p>三 ヒト受精胚 法第二条第一項第六号に規定するヒト受精胚をいう。</p>	<p>三 ヒト受精胚 法第二条第一項第六号に規定するヒト受精胚をいう。</p>
<p>四 人クローン胚 法第二条第一項第十号に規定する人クローン胚をいう。</p>	<p>四 人クローン胚 法第二条第一項第十号に規定する人クローン胚をいう。</p>
<p>五 ヒトES細胞 ヒト胚から採取された細胞又は当該細胞の分裂により生ずる細胞であつて、胚でないもののうち、多能性（内胚葉、中胚葉及び外胚葉の細胞に分化する性質をいう。）を有し、かつ、自己複製能力を維持しているもの又はそれに類する能力を有することが推定されるものをいう。</p>	<p>五 ヒトES細胞 ヒト胚から採取された細胞又は当該細胞の分裂により生ずる細胞であつて、胚でないもののうち、多能性（内胚葉、中胚葉及び外胚葉の細胞に分化する性質をいう。）を有し、かつ、自己複製能力を維持しているもの又はそれに類する能力を有することが推定されるものをいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>六</u> 分化細胞 ヒトES細胞が分化することにより、その性質を有しなくなった細胞をいう。</p>
<p><u>六</u> 生殖細胞 始原生殖細胞から精子又は卵子に至るまでの細胞をいう。</p>	<p><u>七</u> 生殖細胞 始原生殖細胞から精子又は卵子に至るまでの細胞をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>八</u> 樹立 特定の性質を有する細胞を作成することをいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>九</u> 第一種樹立 ヒト受精胚を用いてヒトES細胞を樹立すること（次号に掲げるものを除く。）をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十</u> 第二種樹立 人クローン胚を作成し、当該人クローン胚を用いてヒトES細胞を樹立することをいう。</p>
<p><u>七</u> 樹立機関 ヒトES細胞を樹立する機関をいう。</p>	<p><u>十一</u> 樹立機関 ヒトES細胞を樹立する機関をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十二</u> 第一種樹立機関 樹立機関のうち、第一種樹立を行うものをいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十三</u> 第二種樹立機関 樹立機関のうち、第二種樹立を行うものをいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十四</u> 第一種提供医療機関 第一種樹立の用に供されるヒト受精胚の提供を受け、これを第一種樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十五</u> 第二種提供医療機関 第二種樹立の用に供される人クローン胚を作成するために必要なヒトの未受精卵又はヒト受精胚（以下「未受精卵等」という。）の提供を受け、これを第二種樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十六</u> 体細胞提供機関 第二種樹立の用に供される人クローン胚を作成するために必要なヒトの体細胞（以下単に「体細胞」という。）の提供を受け、これを第二種樹立機関に移送する機関をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十七</u> 分配機関 ヒトES細胞（基礎的研究の用に供するものに限る。）を使用する第三者に分配することを目的として樹立機関から寄託されたヒトES細胞の分配をし、及び維持管理をする機関をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>十八</u> 使用機関 ヒトES細胞を使用して基礎的研究を行う機関（海外使用機関を除く。）をいう。</p>
<p><u>八</u> 使用機関 ヒトES細胞を使用して基礎的研究を行う機関（海外機関を除く。）をいう。</p>	<p><u>十七</u> 分配機関 ヒトES細胞（基礎的研究の用に供するものに限る。）を使用する第三者に分配することを目的として樹立機関から寄託されたヒトES細胞の分配をし、及び維持管理をする機関をいう。</p>
<p><u>九</u> 分配機関 他の機関から寄託されたヒトES細胞（基礎的研究の用に供するものに限る。）を第三者に分配する業務を実施する機関をいう。</p>	<p><u>十九</u> 臨床利用機関 法令に基づき、医療（臨床研究及び治験を含む。）に用いることを目的としたヒトES細胞の使用のための手続を経てヒトES細胞を使用する機関をいう。ただし、ヒトES細胞を使用して基礎的研究を行う場合を除く。</p>
<p><u>十</u> 臨床利用機関 法令に基づき、医療（臨床研究及び治験を含む。次号、第十九号、第四条第一項第一号及び第二十三条第一項第五号において同じ。）に用いることを目的としてヒトES細胞を使用する機関（海外機関を除く。）をいう。</p>	<p></p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p><u>十一</u> 海外機関 外国において基礎的研究又は医療に用いることを目的としてヒトES細胞を使用する機関をいう。</p>	<p><u>二十</u> 海外使用機関 日本国外にある事業所においてヒトES細胞を使用して基礎的研究を行う機関をいう。</p>
<p><u>十二</u> 提供医療機関 樹立の用に供されるヒト受精胚の提供を受け、これを樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>	<p><u>十四</u> 第一種提供医療機関 第一種樹立の用に供されるヒト受精胚の提供を受け、これを第一種樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>
<p><u>十三</u> 人クローン胚使用樹立機関 樹立機関のうち、人クローン胚を作成し、当該人クローン胚を用いてヒトES細胞を樹立する機関をいう。</p>	<p><u>十三</u> 第二種樹立機関 樹立機関のうち、第二種樹立を行うものをいう。</p>
<p><u>十四</u> 未受精卵等提供医療機関 人クローン胚を作成するために必要なヒトの未受精卵又はヒト受精胚(以下「未受精卵等」という。)の提供を受け、これを人クローン胚使用樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>	<p><u>十五</u> 第二種提供医療機関 第二種樹立の用に供される人クローン胚を作成するために必要なヒトの未受精卵又はヒト受精胚(以下「未受精卵等」という。)の提供を受け、これを第二種樹立機関に移送する医療機関をいう。</p>
<p><u>十五</u> 体細胞提供機関 人クローン胚の樹立の用に供される人クローン胚を作成するために必要なヒトの体細胞(以下単に「体細胞」という。)の提供を受け、これを人クローン胚使用樹立機関に移送する機関をいう。</p>	<p><u>十六</u> 体細胞提供機関 第二種樹立の用に供される人クローン胚を作成するために必要なヒトの体細胞(以下単に「体細胞」という。)の提供を受け、これを第二種樹立機関に移送する機関をいう。</p>
<p><u>十六</u> 樹立計画 樹立機関が行うヒトES細胞の樹立に関する計画をいう。</p>	<p><u>二十一</u> 樹立計画 樹立機関が行うヒトES細胞の樹立及び分配(海外使用機関に対する分配を除く。)に関する計画をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>二十二</u> 海外分配計画 樹立機関が行うヒトES細胞の海外使用機関に対する分配(基礎的研究の用に供するものに限る。)に関する計画をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>二十三</u> 使用計画 使用機関が行うヒトES細胞の使用に関する計画をいう。</p>
<p><u>十七</u> 樹立責任者 樹立機関においてヒトES細胞の樹立を総括する立場にある者をいう。</p>	<p><u>二十四</u> 樹立責任者 樹立機関において、ヒトES細胞の樹立及び分配を総括する立場にある者をいう。</p>
<p>[号を削る。]</p>	<p><u>二十五</u> インフォームド・コンセント 十分な説明に基づく自由な意思による同意をいう。</p>
<p><u>十八</u> 研究者等 樹立責任者の監督の下でヒト胚又はヒトES細胞を取り扱う研究者及び技術者をいう。</p>	<p>[号を加える。]</p>
<p><u>十九</u> 主務大臣 この指針における主務大臣は、基礎的研究を目的としたヒトES細胞の樹立にあつては文部科学大臣、医療を目的としたヒトES細胞の樹立にあつては厚生労働大臣とする。</p>	<p>[号を加える。]</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(適用の範囲) <u>第三条</u> この指針は、ヒトES細胞の樹立及び分配(樹立機関が行うものに限る。)について適用する。</p>
<p>(ヒト胚及びヒトES細胞に対する配慮) <u>第三条</u> ヒト胚及びヒトES細胞を取り扱う者は、ヒト胚が人の生命の萌芽であること並びにヒトES細胞がヒト胚を滅失させて樹立されたものであること及び全ての細胞に分化する可能性があることに配慮し、人の尊厳を侵すことのないよう、誠実かつ慎重にヒト胚及びヒトES細胞の取扱いを行うものとする。</p>	<p>(ヒト胚及びヒトES細胞に対する配慮) <u>第四条</u> ヒト胚及びヒトES細胞を取り扱う者は、ヒト胚が人の生命の萌芽であること並びにヒトES細胞がヒト胚を滅失させて樹立されたものであること及び全ての細胞に分化する可能性があることに配慮し、人の尊厳を侵すことのないよう、誠実かつ慎重にヒト胚及びヒトES細胞の取扱いを行うものとする。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(ヒト胚の無償提供) <u>第五条</u> ヒトES細胞の樹立の用に供されるヒト胚は、必要な経費を除き、無償で提供されるものとする。</p>
<p align="center">第二章 樹立の要件</p>	<p align="center">第二章 ヒトES細胞の樹立等</p>

<p style="text-align: center;">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p style="text-align: center;">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p style="text-align: center;">[節を削る。]</p> <p>(樹立の要件)</p> <p><u>第四条</u> ヒト受精卵からのヒトES細胞の樹立は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 次のいずれかに該当するヒトES細胞の使用の方針が示されていること。</p> <p style="padding-left: 2em;">イ <u>基礎的研究を目的としたヒトES細胞の使用の方針</u></p> <p style="padding-left: 2em;">ロ 医療を目的としたヒトES細胞の使用の方針</p> <p>二 新たにヒトES細胞を樹立することが、前号に定める使用の方針に照らして科学的合理性及び必要性を有すること。</p> <p>[項を削る。]</p>	<p style="text-align: center;"><u>第一節</u> 樹立の要件等</p> <p>(ヒトES細胞の樹立の要件)</p> <p><u>第六条</u> ヒトES細胞の第一種樹立は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 <u>法令又は国の指針に適合するよう、次のいずれかに該当するヒトES細胞の使用の方針が示されていること。</u></p> <p style="padding-left: 2em;">イ ヒトES細胞の分配及び使用に関する指針（平成二十六年文部科学省告示第百七十四号。以下「ES分配使用指針」という。）<u>第二十一条第一項第一号に規定する使用の要件を満たしたヒトES細胞の使用の方針</u></p> <p style="padding-left: 2em;">ロ 医療（臨床研究及び治験を含む。）を目的としたヒトES細胞の使用の方針</p> <p>二 新たにヒトES細胞を樹立することが、前号に定める使用の方針に照らして科学的合理性及び必要性を有すること。</p> <p><u>2</u> ヒトES細胞の第二種樹立は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 ES分配使用指針第二十一条第二項第一号に規定する使用の要件を満たしたヒトES細胞の使用の方針が示されていること。</p> <p>二 新たにヒトES細胞を樹立することが、前号に定める使用の方針に照らして科学的合理性及び必要性を有すること。</p>
<p><u>2</u> ヒトES細胞の樹立の用に供されるヒト受精卵は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 生殖補助医療に用いる目的で作成されたヒト受精卵であって、当該目的に用いる予定がないものうち、提供する者による当該ヒト受精卵を滅失させることについての意思が確認されているものであること。</p> <p>二 ヒトES細胞の樹立の用に供されることについて、適切なインフォームド・コンセントを受けたものであること。</p> <p>三 凍結保存されているものであること。</p> <p>四 受精後十四日以内（凍結保存されている期間を除く。）のものであること。</p>	<p><u>第七条</u> 第一種樹立の用に供されるヒト受精卵は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 生殖補助医療に用いる目的で作成されたヒト受精卵であって、当該目的に用いる予定がないものうち、提供する者による当該ヒト受精卵を滅失させることについての意思が確認されているものであること。</p> <p>二 ヒトES細胞の樹立の用に供されることについて、適切なインフォームド・コンセントを受けたものであること。</p> <p>三 凍結保存されているものであること。</p> <p>四 受精後十四日以内（凍結保存されている期間を除く。）のものであること。</p>
<p><u>五</u> 必要な経費を除き、無償で提供されたものであること。</p>	<p><u>第五条</u> ヒトES細胞の樹立の用に供されるヒト胚は、必要な経費を除き、無償で提供されるものとする。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(樹立の用に供されるヒト胚に関する要件)</p> <p><u>第七条</u> 第一種樹立の用に供されるヒト受精卵は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 生殖補助医療に用いる目的で作成されたヒト受精卵であって、当該目的に用いる予定がないものうち、提供する者による当該ヒト受精卵を滅失させることについての意思が確認されているものであること。</p> <p>二 ヒトES細胞の樹立の用に供されることについて、適切なインフォームド・コンセントを受けたもので</p>

<p style="text-align: center;">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p style="text-align: center;">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
	<p>あること。</p> <p>三 凍結保存されているものであること。</p> <p>四 受精後十四日以内（凍結保存されている期間を除く。）のものであること。</p> <p>2 第一種提供医療機関によるヒト受精卵の第一種樹立機関への提供は、ヒトES細胞の樹立に必要な不可欠な数に限るものとする。</p> <p>3 第一種樹立機関は、提供されたヒト受精卵を遅滞なくヒトES細胞の樹立の用に供するものとする。</p> <p>4 第二種樹立の用に供される人クローン胚は、特定胚の取扱いに関する指針（平成二十一年文部科学省告示第八十三号。以下「特定胚指針」という。）に基づいて作成されたものに限るものとする。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(樹立機関内のヒト胚等の取扱い)</p> <p>第八条 樹立機関におけるヒト胚及び未受精卵の取扱いは、医師又は医師の指導により適切に行われるものとする。</p>
<p style="text-align: center;">第三章 樹立の体制 [節を削る。]</p>	<p>[章を加える。]</p> <p style="text-align: center;">第二節 樹立等の体制</p>
<p>(樹立機関の基準)</p> <p>第五条 樹立機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 <u>ヒトES細胞を樹立するために必要な施設、人員、技術的能力及び財政的基礎を有すること。</u></p> <p>[号を削る。]</p> <p>二 倫理審査委員会が設置されていること。</p> <p>三 ヒトES細胞の樹立に関する技術的能力及び倫理的な識見を向上させるために必要な教育及び研修（以下「教育研修」という。）を実施するための計画（以下「教育研修計画」という。）が定められていること。</p>	<p>(樹立機関の基準)</p> <p>第九条 樹立機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 <u>ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配をするに足りる十分な施設、人員、財政的基礎及び技術的能力を有すること。</u></p> <p>二 <u>ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配について遵守すべき技術的及び倫理的な事項に関する規則が定められていること。</u></p> <p>三 倫理審査委員会が設置されていること。</p> <p>四 <u>ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配に関する技術的能力及び倫理的な識見を向上させるために必要な教育及び研修（以下「教育研修」という。）を実施するための計画（以下「教育研修計画」という。）が定められていること。</u></p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(樹立機関の業務等)</p> <p>第十条 樹立機関は、ヒトES細胞を樹立することのほか、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 当該樹立機関で樹立したヒトES細胞の分配をし、及び維持管理をすること（分配機関に寄託をして分配をさせ、及び維持管理をさせる場合を含む。）。</p> <p>二 一度分配をしたヒトES細胞のうち使用機関において加工されたものを譲り受け、その分配をし、及び維持管理をすること（ヒトES細胞を使用する研究の進展のために合理的である場合に限る。）。</p> <p>三 使用計画（当該樹立機関が樹立したヒトES細胞を、当該樹立機関から分配を受けて用いるものに限る。）を実施する研究者にヒトES細胞の取扱いに関する技術的研修を行うこと。</p> <p>2 樹立機関は、ヒトES細胞の樹立、維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けに関する記録を作成し、これ</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
	<p>を保存するものとする。</p> <p>3 樹立機関は、ヒトES細胞の樹立、維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けに関する資料の提出、調査の受入れその他主務大臣が必要と認める措置に協力するものとする。</p>
<p>(樹立機関の長)</p> <p>第六条 樹立機関の長は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 樹立計画の妥当性を確認し、この指針で定める<u>手続に従い</u>、その実施を了承すること。</p> <p>[号を削る。]</p> <p>二 ヒトES細胞の樹立の状況を把握し、必要に応じ、樹立責任者に対しその留意事項、改善事項等に関して指示を与えること。</p> <p>三 ヒトES細胞の樹立を監督すること。</p> <p>四 樹立機関においてこの指針を周知徹底し、これを遵守させること。</p> <p>五 ヒトES細胞の樹立に関する教育研修計画を<u>作成し</u>、教育研修を実施すること。</p> <p>[号を削る。]</p> <p>2 樹立機関の長は、樹立責任者を兼ねることができない。ただし、前項の業務を代行する者が選任されている場合は、この限りでない。</p> <p>3 前項ただし書の場合においては、この指針（前項本文を除く。）の規定中「樹立機関の長」とあるのは、「樹立機関の長の業務を代行する者」と読み替えるものとする。</p>	<p>(樹立機関の長)</p> <p>第十一条 樹立機関の長は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 樹立計画及びその変更の妥当性を確認し、<u>第十四条から第十七条までの規定に基づき</u>、その実施を了承すること。</p> <p>二 海外分配計画の妥当性を確認し、第四十四条の規定に基づき、その実施を了承すること。</p> <p>三 ヒトES細胞の樹立の進行状況及び結果並びにヒトES細胞の維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けの状況を把握し、必要に応じ樹立責任者に対しその留意事項、改善事項等に関して指示を与えること。</p> <p>四 ヒトES細胞の樹立、維持管理、分配及び寄託を監督すること。</p> <p>五 樹立機関においてこの指針を周知徹底し、これを遵守させること。</p> <p>六 ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配に関する教育研修計画を策定し、これに基づく教育研修を実施すること。</p> <p>七 前条第一項第三号に規定する技術的研修について、その実施体制を整備すること。</p> <p>2 樹立機関の長は、樹立責任者を兼ねることができない。ただし、<u>第九条第二号</u>に規定する規則により前項の業務を代行する者が選任されている場合は、この限りでない。</p> <p>3 前項ただし書の場合においては、この指針の規定（前項を除く。）中「樹立機関の長」とあるのは「樹立機関の長の業務を代行する者」と、<u>第四十四条第一項中「当該樹立機関の長」とあるのは「当該樹立機関の長（当該樹立機関の長の業務を代行する者を含む。）」</u>と、それぞれ読み替えるものとする。</p>
<p>(樹立責任者)</p> <p>第七条 樹立責任者は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 ヒトES細胞の樹立に関して、内外の入手し得る資料及び情報に基づき樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性について検討し、その結果に基づき、樹立計画を記載した書類（以下「樹立計画書」という。）を作成すること。</p> <p>[号を削る。]</p> <p>[号を削る。]</p> <p>二 ヒトES細胞の樹立を総括し、研究者等に対し必要な指示をすること。</p> <p>三 ヒトES細胞の樹立が樹立計画書に従い適切に実施されていることを随時確認すること。</p> <p>[号を削る。]</p>	<p>(樹立責任者)</p> <p>第十二条 樹立責任者は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 ヒトES細胞の樹立に関して、内外の入手し得る資料及び情報に基づき、樹立計画又はその変更の科学的妥当性及び倫理的妥当性について検討すること。</p> <p>二 前号の検討の結果に基づき、樹立計画を記載した書類（以下「樹立計画書」という。）又は樹立計画の変更の内容及び理由を記載した書類（第十七条第一項、第三項及び第七項において「樹立計画変更書」という。）を作成すること。</p> <p>三 海外分配計画を記載した書類（以下「海外分配計画書」という。）を作成すること。</p> <p>四 ヒトES細胞の樹立、維持管理、分配及び寄託を総括し、並びに研究者に対し必要な指示をすること。</p> <p>五 ヒトES細胞の樹立が樹立計画書に従い適切に実施されていることを随時確認すること。</p> <p>六 ヒトES細胞の維持管理、分配及び寄託が適切に実施されていることを随時確認すること。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[号を削る。]</p> <p><u>四</u> ヒトES細胞の樹立に関する教育研修に<u>研究者等を参加させること。</u></p> <p>[号を削る。]</p> <p>[号を削る。]</p> <p>2 樹立責任者は、一の樹立計画ごとに一名とし、ヒトES細胞に関する倫理的な識見並びに十分な専門的知識及び技術的能力を有するとともに、前項各号に掲げる業務を的確に実施できる者とする。</p>	<p><u>七</u> 第十八条第一項及び第二項並びに第十九条第一項に規定する手続を行うこと。</p> <p><u>八</u> 当該樹立計画又は海外分配計画を実施する研究者に対し、ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配に関する<u>教育研修計画に基づく教育研修に参加するよう命ずるとともに、必要に応じ、その他のヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配に関する教育研修を実施すること。</u></p> <p><u>九</u> 第十条第一項第三号に規定する技術的研修を実施すること。</p> <p><u>十</u> 前各号に定めるもののほか、樹立、維持管理、分配及び寄託を総括するに当たって必要となる措置を講ずること。</p> <p>2 樹立責任者は、一の樹立計画ごとに一名とし、ヒトES細胞に関する倫理的な識見並びに<u>動物胚を用いたES細胞の樹立の経験その他のヒトES細胞の樹立に関する十分な専門的知識及び技術的能力を有するとともに、前項各号に掲げる業務を的確に実施できる者とする。</u></p>
<p>(樹立機関の倫理審査委員会)</p> <p><u>第八条</u> 樹立機関の倫理審査委員会は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 この指針に即して、樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して樹立機関の長に対し意見を提出すること。</p> <p>[号を削る。]</p> <p><u>二</u> ヒトES細胞の樹立の状況について報告を受け、必要に応じて調査を行い、その留意事項、改善事項等に関して樹立機関の長に対し意見を提出すること。</p> <p>2 樹立機関の倫理審査委員会は、前項第一号の審査及び第二号の調査の記録を作成し、これを保管するものとする。</p> <p>3 樹立機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、<u>次に掲げる要件の全てを満たしていること。なお、イからハまでに掲げる者については、それぞれ他を同時に兼ねることはできない。会議の成立についても同様の要件とする。</u></p> <p><u>イ</u> 生物学・医学の専門家等、自然科学の有識者が含まれていること。</p> <p><u>ロ</u> 倫理学・法学の専門家等、人文・社会科学の有識者が含まれていること。</p> <p><u>ハ</u> 一般の立場に立って意見を述べられる者が含まれていること。</p> <p><u>ニ</u> 当該樹立機関が属する法人に所属する者以外の者が二名以上含まれていること。</p> <p><u>ホ</u> <u>五名以上で構成され、男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれていること。</u></p> <p><u>ヘ</u> 当該樹立計画を実施する<u>研究者等又は樹立責任者との間に利害関係を有する者が審査に参画しないこと。</u></p> <p>[号を削る。]</p>	<p>(樹立機関の倫理審査委員会)</p> <p><u>第十三条</u> 樹立機関の倫理審査委員会は、次に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 この指針に即して、樹立計画<u>又はその変更</u>の科学的妥当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して樹立機関の長に対し意見を提出すること。</p> <p><u>二</u> この指針に即して、海外分配計画の妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して樹立機関の長に対し意見を提出すること。</p> <p><u>三</u> 樹立の<u>進行状況及び結果並びに維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けの状況</u>について報告を受け、必要に応じて調査を行い、その留意事項、改善事項等に関して樹立機関の長に対し意見を提出すること。</p> <p>2 樹立機関の倫理審査委員会は、前項第一号及び第二号の審査の<u>過程</u>の記録を作成し、これを保管するものとする。</p> <p>3 樹立機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性並びに<u>海外分配計画の妥当性を総合的に審査できるよう、生物学、医学及び法律に関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立って意見を述べられる者から構成されていること。</u></p> <p>[イを加える。]</p> <p>[ロを加える。]</p> <p>[ハを加える。]</p> <p><u>二</u> 当該樹立機関が属する法人に所属する者以外の者が二名以上含まれていること。</p> <p><u>三</u> 男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれていること。</p> <p><u>四</u> 当該樹立計画又は海外分配計画を実施する研究者、樹立責任者との間に利害関係を有する者及び<u>樹立責任者の三親等以内の親族が審査に参画しないこと。</u></p> <p><u>五</u> 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障されるよう適切な運営手続が定められていること。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>二 <u>当該倫理審査委員会に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。</u></p> <p>[項を削る。]</p> <p>4 樹立計画を実施する樹立責任者及び研究者等は、樹立機関の倫理審査委員会の審議及び意見の決定に同席しないこと。ただし、当該倫理審査委員会の求めがある場合には、その会議に出席し、樹立計画に関する説明を行うことができる。</p> <p>5 樹立機関の倫理審査委員会は、樹立計画の軽微な変更等に係る審査について、当該倫理審査委員会が指名する委員による審査を行い、意見を述べるることができる。当該審査の結果は、全ての委員に報告されなければならない。</p> <p>6 樹立機関の倫理審査委員会の議事の内容は、当該倫理審査委員会に関する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、公開するものとする。</p>	<p>六 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにその議事の内容の公開その他樹立計画及び海外分配計画の審査に必要な手続に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。</p> <p>4 前項に掲げるもののほか、第二種樹立機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 前項第一号の医学に関する専門家に、再生医療に関して識見を有する者及び未受精卵等の提供者の受ける医療に関して優れた識見を有する医師が含まれていること。</p> <p>二 委員の過半数が第二種樹立機関に所属していない者であること。</p> <p>[項を加える。]</p> <p>[項を加える。]</p> <p>5 倫理審査委員会の運営に当たっては、第三項第六号に規定する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、議事の内容について公開するものとする。</p>
<p align="center"><u>第四章</u> 樹立の手続 [節を削る。]</p>	<p align="center">[章を加える。] <u>第三節</u> 樹立の手続</p>
<p>(樹立機関の長の了承)</p> <p><u>第九条</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞の樹立に当たっては、あらかじめ、樹立計画書を作成し、樹立計画の実施について樹立機関の長の了承を求めるものとする。</p> <p>2 樹立計画書には、次に掲げる事項を記載するものとする。</p> <p>一 樹立計画の名称</p> <p>二 樹立機関の名称及び所在地</p> <p>三 樹立責任者の氏名</p> <p><u>四</u> 研究者等（ヒト胚を取り扱う者に限る。）の氏名</p> <p><u>五</u> 樹立の用に供されるヒト胚に関する説明</p> <p><u>六</u> 樹立後のヒトES細胞の使用の方針</p> <p><u>七</u> 樹立の目的及び必要性</p> <p><u>八</u> 樹立の方法及び期間</p> <p><u>九</u> 分配に関する説明</p> <p><u>十</u> 樹立機関の基準に関する説明</p> <p><u>十一</u> インフォームド・コンセントに関する説明</p> <p><u>十二</u> 提供医療機関に関する説明</p>	<p>(樹立機関の長の了承)</p> <p><u>第十四条</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞の樹立に当たっては、あらかじめ、樹立計画書を作成し、樹立計画の実施について樹立機関の長の了承を求めるものとする。</p> <p>2 樹立計画書には、次に掲げる事項を記載するものとする。</p> <p>一 樹立計画の名称</p> <p>二 樹立機関の名称及びその所在地並びに樹立機関の長の氏名</p> <p>三 樹立責任者及び研究者の氏名、略歴、研究業績、教育研修の受講歴及び樹立計画において果たす役割</p> <p>[号を加える。]</p> <p><u>四</u> 樹立の用に供されるヒト胚に関する説明</p> <p><u>五</u> 樹立後のヒトES細胞の使用の方針</p> <p><u>六</u> 樹立の目的及び必要性</p> <p><u>七</u> 樹立の方法及び期間</p> <p><u>八</u> 分配（分配機関に寄託をして分配をさせる場合を含む。）に関する説明</p> <p><u>九</u> 樹立機関の基準に関する説明</p> <p><u>十</u> インフォームド・コンセントに関する説明（匿名化の方法を含む。）</p> <p><u>十一</u> 細胞提供機関（第一種樹立を行う場合には、第一種提供医療機関をいひ、第二種樹立を行う場合に</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[号を削る。] [号を削る。]</p> <p>3 樹立計画書には、次に掲げる書類を添付するものとする。</p> <p>一 樹立責任者及び研究者等（ヒト胚を取り扱う者に限る。）の略歴、研究業績及び教育研修の受講歴を示す書類 二 第十九条第三項のインフォームド・コンセントに係る説明書</p>	<p>は、第二種提供医療機関及び体細胞提供機関をいう。以下同じ。）に関する説明</p> <p>十二 細胞提供機関の倫理審査委員会に関する説明 十三 その他必要な事項</p> <p>3 樹立計画書には、<u>第一種樹立を行う場合には第二十五条第三項の説明書を、第二種樹立を行う場合には第三十一条第三項及び第三十七条第三項の説明書を、それぞれ添付するものとする。</u></p> <p>[号を加える。]</p> <p>[号を加える。]</p>
<p>(樹立機関の倫理審査委員会の意見聴取)</p> <p>第十条 樹立機関の長は、前条第一項の規定に基づき、樹立責任者から樹立計画の実施の了承を求められたときは、科学的妥当性及び倫理的妥当性について樹立機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき樹立計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p> <p>2 樹立機関の長は、前項の規定によりこの指針に対する適合性を確認した樹立計画について、当該樹立計画に係る全ての提供医療機関の長の了解を得るものとする。</p> <p>3 提供医療機関の長は、樹立計画を了解するに当たっては、当該提供医療機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</p> <p>4 提供医療機関の長は、樹立計画を了解する場合には、当該提供医療機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類を添付して、樹立機関の長に通知するものとする。</p>	<p>(樹立機関の倫理審査委員会の意見聴取)</p> <p>第十五条 樹立機関の長は、前条第一項の規定に基づき、樹立責任者から樹立計画の実施の了承を求められたときは、科学的妥当性及び倫理的妥当性について樹立機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき樹立計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p> <p>2 樹立機関の長は、前項の規定によりこの指針に対する適合性を確認した樹立計画について、当該樹立計画に係る全ての細胞提供機関の長の了解を得るものとする。</p> <p>3 細胞提供機関の長は、樹立計画を了解するに当たっては、当該機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</p> <p>4 細胞提供機関の長は、樹立計画を了解する場合には、当該機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類を添付して、樹立機関の長に通知するものとする。</p>
<p>(主務大臣の確認)</p> <p>第十一条 樹立機関の長は、樹立計画の実施を了承するに当たっては、前条の手續の終了後、当該樹立計画のこの指針に対する適合性について、主務大臣の確認を受けるものとする。</p> <p>2 前項の場合には、樹立機関の長は、次に掲げる書類を主務大臣に提出するものとする。</p> <p>一 第九条第三項各号に掲げる書類を添付した樹立計画書 二 樹立機関及び提供医療機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>[号を削る。]</p> <p>三 樹立機関及び提供医療機関の倫理審査委員会に関する規則</p> <p>3 <u>主務大臣</u>は、第一項の確認を求められたときは、樹立計画のこの指針に対する適合性について、<u>所要の部会</u>（文部科学大臣にあつては科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会、厚生労働大臣にあつては厚生科学</p>	<p>(主務大臣の確認)</p> <p>第十六条 樹立機関の長は、樹立計画の実施を了承するに当たっては、前条の手續の終了後、当該樹立計画のこの指針に対する適合性について、主務大臣の確認を受けるものとする。</p> <p>2 前項の場合には、樹立機関の長は、次に掲げる書類を主務大臣に提出するものとする。</p> <p>一 第十四条第三項の説明書を添付した樹立計画書 二 樹立機関及び当該樹立計画に係る全ての細胞提供機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類、これらの機関の倫理審査委員会に関する事項を記載した書類並びにこれらの機関の倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにその議事の内容の公開その他樹立計画の審査に必要な手續に関する規則の写し 三 ヒトES細胞の樹立、維持管理及び分配について遵守すべき技術的及び倫理的な事項に関する規則の写し</p> <p>[号を加える。]</p> <p>3 <u>文部科学大臣</u>は、第一項の確認を求められたときは、樹立計画のこの指針に対する適合性について、科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p><u>審議会再生医療等評価部会</u>の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。 [項を削る。]</p>	<p>4 厚生労働大臣は、第一項の確認を求められたときは、樹立計画のこの指針に対する適合性について、厚生科学審議会再生医療等評価部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p>
<p>(樹立計画の変更)</p> <p><u>第十二条</u> 樹立責任者は、<u>第九条第二項各号(第二号を除く。)</u>の記載内容を変更しようとするときは、あらかじめ、当該変更について樹立機関の長の了承を求めるものとする。この場合において、了承を求められた樹立機関の長は、当該変更の科学的妥当性及び倫理的妥当性について樹立機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき当該変更のこの指針に対する適合性を確認するものとする。<u>ただし、樹立計画の実質的な内容に係らない変更については樹立機関の長に報告することをもって足りる。</u></p> <p>2 樹立機関の長は、前項本文の確認をした樹立計画の変更に関し、その内容が<u>提供医療機関</u>に関係する場合には、当該変更について当該提供医療機関の長の了解を得るものとする。この場合において、<u>提供医療機関</u>の長は、当該提供医療機関の倫理審査委員会の意見を聴いた上で、当該変更を理解する場合には、当該倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類を添付して樹立機関の長に通知するものとする。</p> <p>3 樹立機関の長は、第一項本文の了承をするに当たっては、当該変更のこの指針に対する適合性について主務大臣の確認を受けるものとする。この場合において、樹立機関の長は、<u>樹立計画変更書(樹立計画の変更の内容及び理由を記載した書類をいう。)</u>のほか、次に掲げる書類を主務大臣に提出するものとする。</p> <p>一 当該変更に係る樹立機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>二 前項に規定する場合には、当該変更に係る提供医療機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>4 <u>主務大臣</u>は、前項の確認を求められたときは、当該変更のこの指針に対する適合性について、<u>所要の部会(文部科学大臣にあっては科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会、厚生労働大臣にあっては厚生科学審議会再生医療等評価部会)</u>の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。 [項を削る。] [項を削る。] [項を削る。] [項を削る。] [項を削る。]</p>	<p>(樹立計画の変更)</p> <p><u>第十七条</u> 樹立責任者は、<u>第十四条第二項第一号及び第三号から第十二号までに掲げる事項</u>を変更しようとするときは、あらかじめ、<u>樹立計画変更書</u>を作成して、樹立機関の長の了承を求めるものとする。この場合において、了承を求められた樹立機関の長は、当該変更の科学的妥当性及び倫理的妥当性について樹立機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき当該変更のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p> <p>2 樹立機関の長は、前項の確認をした樹立計画の変更に関し、その内容が<u>細胞提供機関</u>に関係する場合には、当該変更について当該細胞提供機関の長の了解を得るものとする。この場合において、<u>了解を求められた細胞提供機関</u>の長は、当該細胞提供機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとし、樹立計画の変更を理解する場合には、当該倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類を添付して樹立機関の長に通知するものとする。</p> <p>3 樹立機関の長は、第一項の了承をするに当たっては、当該変更のこの指針に対する適合性について主務大臣の確認を受けるものとする。この場合において、樹立機関の長は、<u>樹立計画変更書</u>のほか、次に掲げる書類を主務大臣に提出するものとする。</p> <p>一 当該変更に係る樹立機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>二 前項に規定する場合には、当該変更に係る細胞提供機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>4 <u>文部科学大臣</u>は、前項の確認を求められたときは、当該変更のこの指針に対する適合性について、科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p> <p><u>5</u> 厚生労働大臣は、第三項の確認を求められたときは、当該変更のこの指針に対する適合性について、厚生科学審議会再生医療等評価部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p> <p><u>6</u> 樹立機関の長は、<u>第十四条第二項第二号</u>に掲げる事項を変更したときは、速やかに、その旨を主務大臣に届け出るものとする。</p> <p><u>7</u> 樹立責任者は、<u>第十四条第二項第十三号</u>に掲げる事項を変更しようとするときは、あらかじめ、樹立計画変更書を作成して、樹立機関の長の了承を求めるものとする。</p> <p><u>8</u> 樹立機関の長は、前項の了承をしたときは、速やかに、その旨を樹立機関の倫理審査委員会に報告するとともに、主務大臣に届け出るものとする。</p> <p><u>9</u> 文部科学大臣は、前項の届出があったときは、当該届出に係る事項を科学技術・学術審議会生命倫理・安</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[項を削る。]</p>	<p>全部会に報告するものとする。 <u>10</u> 厚生労働大臣は、第八項の届出があったときは、当該届出に係る事項を厚生科学審議会再生医療等評価部に報告するものとする。</p>
<p align="center">(樹立計画の実質的な内容に係らない変更)</p> <p><u>第十三条</u> 樹立機関の長は、<u>第九条第二項第二号</u>に掲げる事項に変更があったときは、速やかに、その旨を主務大臣に届け出るものとする。 <u>2</u> 樹立機関の長は、前条第一項ただし書の実質的な内容に係らない変更があったときは、速やかに、その旨を樹立機関の倫理審査委員会及び主務大臣に届け出るものとする。</p>	<p align="center">第十七条</p> <p><u>6</u> 樹立機関の長は、<u>第十四条第二項第二号</u>に掲げる事項を変更したときは、速やかに、その旨を主務大臣に届け出るものとする。</p>
<p align="center">(樹立の状況の報告)</p> <p><u>第十四条</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞の樹立の状況を樹立機関の長及び樹立機関の倫理審査委員会に随時報告するものとする。 <u>2</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞を樹立したときは、速やかに、その旨及び樹立したヒトES細胞株の名称を記載した書類(以下「樹立報告書」という。)を作成し、樹立機関の長に提出するものとする。 <u>3</u> 樹立機関の長は、樹立報告書の提出を受けたときは、速やかに、その写しを樹立機関の倫理審査委員会及び主務大臣に提出するものとする。 <u>4</u> 樹立機関の長は、少なくとも毎年一回、主務大臣にヒトES細胞の<u>樹立の状況</u>を報告するものとする。 <u>5</u> 樹立機関は、ヒトES細胞の樹立に関する資料の提出、調査の受入れその他主務大臣が必要と認める措置に協力するものとする。</p>	<p align="center">(樹立の進行状況等の報告)</p> <p><u>第十八条</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞の樹立の進行状況、ヒトES細胞の維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けの状況並びに提供された未受精卵等及び体細胞の取扱いの状況を樹立機関の長及び樹立機関の倫理審査委員会に随時報告するものとする。 <u>2</u> 樹立責任者は、ヒトES細胞を樹立したときは、速やかに、その旨及び樹立したヒトES細胞株の名称を記載した書類(次項において「樹立報告書」という。)を作成し、樹立機関の長に提出するものとする。 <u>3</u> 樹立機関の長は、樹立報告書の提出を受けたときは、速やかに、その写しを樹立機関の倫理審査委員会及び主務大臣に提出するものとする。 <u>4</u> 樹立機関の長は、<u>樹立したヒトES細胞を維持管理している間は</u>、少なくとも毎年一回、主務大臣に<u>当該ヒトES細胞の維持管理、分配、寄託、返還及び譲受けの状況</u>を報告するものとする。 <p>[項を加える。]</p> </p>
<p align="center">(樹立計画の終了)</p> <p><u>第十五条</u> 樹立責任者は、樹立計画を終了したときは、速やかに、樹立の結果を記載した<u>報告書</u>を作成し、樹立機関の長に提出するものとする。 <u>2</u> 樹立機関の長は、<u>前項の報告書</u>の提出を受けたときは、速やかに、その写しを樹立機関の倫理審査委員会及び主務大臣に提出するものとする。 <u>3</u> 樹立機関は、樹立計画が終了した場合には、その保有するヒトES細胞を分配機関に譲渡する等により、ヒトES細胞の適切な取扱いを図るものとする。</p>	<p align="center">(樹立計画の終了)</p> <p><u>第十九条</u> 樹立責任者は、樹立計画を終了したときは、速やかに、<u>その旨及び樹立の結果を記載した書類</u>(次項において「樹立計画完了報告書」という。)を作成し、樹立機関の長に提出するものとする。 <u>2</u> 樹立機関の長は、<u>樹立計画完了報告書</u>の提出を受けたときは、速やかに、その写しを樹立機関の倫理審査委員会及び主務大臣に提出するものとする。 <u>3</u> 樹立機関は、樹立計画が終了した場合には、その保有するヒトES細胞を分配機関に譲渡する等により、ヒトES細胞の適切な取扱いを図るものとする。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p align="center">(研究成果の公開)</p> <p><u>第二十条</u> ヒトES細胞の樹立により得られた研究成果は、原則として公開するものとする。 <u>2</u> 樹立機関は、ヒトES細胞の樹立により得られた研究成果を公開する場合には、当該ヒトES細胞の樹立がこの指針に適合して行われたことを明示するものとする。</p>
	<p align="center">(樹立機関に関する業務の連携)</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p><u>第二十一条</u> 複数の機関が連携して樹立機関の業務を行うことができるものとする。 2 前項の場合において、各機関は、各機関ごとの役割分担及び責任体制に関する説明を樹立計画書に記載するとともに、各機関ごとに、樹立計画又はその変更（第十四条第二項第二号及び第十三号に掲げる事項に係る変更を除く。）について、当該機関に設置された倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</p>
<p align="center"><u>第五章</u> ヒト受精卵の提供 [節を削る。]</p>	<p align="center"><u>第三章</u> ヒトES細胞の樹立に必要なヒト受精卵等の提供 <u>第一節</u> 第一種樹立に必要なヒト受精卵の提供</p>
<p>(提供医療機関の基準等) <u>第十六条</u> 提供医療機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 ヒト受精卵の取扱いに関して十分な実績及び能力を有すること。 二 倫理審査委員会が設置されていること。 三 ヒト受精卵を提供する者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 四 ヒト受精卵を滅失させることについての意思の確認の方法その他ヒト受精卵の取扱いに関する手続が明確に定められていること。 2 提供医療機関によるヒト受精卵の樹立機関への提供は、ヒトES細胞の樹立に必要な不可欠な数に限るものとする。</p>	<p>(第一種提供医療機関の基準) <u>第二十二条</u> 第一種提供医療機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 ヒト受精卵の取扱いに関して十分な実績及び能力を有すること。 二 倫理審査委員会が設置されていること。 三 ヒト受精卵を提供する者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 四 ヒト受精卵を滅失させることについての意思の確認の方法その他ヒト受精卵の取扱いに関する手続が明確に定められていること。 <u>第七条</u> 2 第一種提供医療機関によるヒト受精卵の第一種樹立機関への提供は、ヒトES細胞の樹立に必要な不可欠な数に限るものとする。</p>
<p>(提供医療機関の倫理審査委員会) <u>第十七条</u> 第八条（第一項第二号を除く。）の規定は、提供医療機関の倫理審査委員会について準用する。この場合において、同条中「樹立機関」とあるのは、「提供医療機関」と読み替えるものとする。 [項を削る。] [項を削る。]</p>	<p>(第一種提供医療機関の倫理審査委員会) <u>第二十三条</u> 第一種提供医療機関の倫理審査委員会は、この指針に即して、樹立計画又はその変更の科学的妥当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して第一種提供医療機関の長に対し意見を提出する業務を行うものとする。 <u>2</u> 第一種提供医療機関の倫理審査委員会は、前項の審査の過程の記録を作成し、これを保管するものとする。 <u>3</u> 第一種提供医療機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、生物学、医学及び法律に関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立って意見を述べられる者から構成されていること。 二 当該第一種提供医療機関が属する法人に所属する者以外の者が二名以上含まれていること。 三 男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれていること。 四 当該樹立計画を実施する研究者、樹立責任者との間に利害関係を有する者及び樹立責任者の三親等以内の親族が審査に参画しないこと。 五 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障されるよう適切な運営手続が定められていること。 六 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにその議事の内容の公開その他樹立計画の審査に必要な手</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[項を削る。]</p>	<p>続に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。 4 倫理審査委員会の運営に当たっては、前項第六号に規定する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、議事の内容について公開するものとする。</p>
<p>(ヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの手続) 第十八条 提供医療機関は、提供者(生殖補助医療に用いる目的で作成されたヒト受精卵のうち、当該目的に用いる予定がないヒト受精卵を提供した夫婦(婚姻の届出をしていないが事実上夫婦と同様の関係にある者を除く。))をいう。以下この章において同じ。)のインフォームド・コンセントを書面により受けるものとする。 [項を削る。] 2 提供医療機関は、インフォームド・コンセントを受けるに当たり、提供者の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 提供者が置かれている立場を不当に利用しないこと。 二 同意の能力を欠く者にヒト受精卵の提供を依頼しないこと。 三 提供者によるヒト受精卵を滅失させることについての意思が事前に確認されていること。 四 提供者が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。 五 インフォームド・コンセントを受けた後少なくとも三十日間は、当該ヒト受精卵を保存すること。 3 提供者は、当該ヒト受精卵が保存されている間は、インフォームド・コンセントを撤回することができるものとする。 4 提供医療機関が提供者からインフォームド・コンセントを受けた後、当該提供者に対して再度インフォームド・コンセントを受ける手続(以下「再同意手続」という。)を行ってはならない。ただし、次条第三項第十四号に基づき再同意手続を行うことについて、提供者が同意している場合であって、提供医療機関の倫理審査委員会の承認を受けたときは、この限りではない。</p>	<p>(第一種樹立に必要なヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの手続) 第二十四条 第一種提供医療機関は、ヒト受精卵を第一種樹立に用いることについて、当該第一種樹立に必要なヒト受精卵の提供者(当該ヒト受精卵の作成に必要な生殖細胞を供した夫婦(婚姻の届出をしていないが事実上夫婦と同様の関係にある者を除く。))をいう。以下この節において同じ。)のインフォームド・コンセントを受けるものとする。 2 前項のインフォームド・コンセントは、書面により表示されるものとする。 3 第一種提供医療機関は、第一項のインフォームド・コンセントを受けるに当たり、ヒト受精卵の提供者の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 ヒト受精卵の提供者が置かれている立場を不当に利用しないこと。 二 同意の能力を欠く者にヒト受精卵の提供を依頼しないこと。 三 ヒト受精卵の提供者によるヒト受精卵を滅失させることについての意思が事前に確認されていること。 四 ヒト受精卵の提供者が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。 五 インフォームド・コンセントの受取後少なくとも三十日間は、当該ヒト受精卵を保存すること。 4 ヒト受精卵の提供者は、当該ヒト受精卵が保存されている間は、インフォームド・コンセントを撤回することができるものとする。 5 第一種提供医療機関がヒト受精卵の提供者からインフォームド・コンセントを受けた後、当該提供者に対して再度インフォームド・コンセントを受ける手続(以下「再同意手続」という。)を行ってはならない。ただし、次条第三項第十五号に基づき再同意手続を行うことについて、ヒト受精卵の提供者が同意している場合であって、第一種提供医療機関の倫理審査委員会の承認を受けたときは、この限りではない。</p>
<p>(ヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの説明) 第十九条 前条第一項のインフォームド・コンセントに係る説明は、樹立機関が行うものとする。 2 樹立機関は、当該樹立機関に所属する者(樹立責任者を除く。)のうちから、当該樹立機関の長が指名する者に前項の説明を実施させるものとする。 3 前項の規定により樹立機関の長の指名を受けた者は、第一項の説明を実施するに当たり、提供者に対し、次に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分かりやすく、これを行うものとする。 一 ヒトES細胞の樹立の目的及び方法 二 ヒト受精卵が樹立過程で滅失することその他提供されるヒト受精卵の取扱い</p>	<p>(第一種樹立に必要なヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの説明) 第二十五条 前条第一項に規定するインフォームド・コンセントに係る説明は、第一種樹立機関が行うものとする。 2 第一種樹立機関は、当該第一種樹立機関に所属する者(樹立責任者を除く。)のうちから、当該第一種樹立機関の長が指名する者に前項の説明を実施させるものとする。 3 前項の規定により第一種樹立機関の長の指名を受けた者は、第一項の説明を実施するに当たり、ヒト受精卵の提供者に対し、次に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分かりやすく、これを行うものとする。 一 ヒトES細胞の樹立の目的及び方法 二 ヒト受精卵が樹立過程で滅失することその他提供されるヒト受精卵の取扱い</p>

<p style="text-align: center;">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p style="text-align: center;">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>三 予想されるヒトES細胞の使用方法及び成果（ヒトES細胞から生殖細胞を作成する可能性がある場合にあっては、その旨及び当該生殖細胞を用いてヒト胚を作成しないことを含む。）</p> <p>四 樹立計画のこの指針に対する適合性が<u>樹立機関</u>、<u>提供医療機関</u>及び主務大臣により確認されていること。</p> <p>五 提供者の個人情報が<u>樹立機関</u>に移送されないことその他個人情報の保護の具体的な方法</p> <p>六 提供者が将来にわたり報酬を受けることのないこと。</p> <p>七 ヒトES細胞について遺伝子の解析が行われる可能性がある場合には、その旨及びその遺伝子の解析が特定の個人を識別するものではないこと。 [号を削る]</p> <p>八 提供されたヒト受精卵から樹立したヒトES細胞に関する情報を提供者に開示しないこと。</p> <p>九 ヒトES細胞の樹立の過程及びヒトES細胞を使用する研究から得られた研究成果が公開される可能性のあること。</p> <p>十 ヒトES細胞が<u>樹立機関</u>において長期間維持管理されるとともに、<u>使用機関</u>、<u>臨床利用機関</u>又は<u>海外機関</u>に分配をされること。</p> <p>十一 ヒトES細胞（分化細胞を含む。）から有用な成果が得られた場合には、その成果から特許権、著作権その他の無体財産権又は経済的利益が生ずる可能性があること及びこれらが提供者に帰属しないこと。</p> <p>十二 提供すること又はしないことの意味表示が提供者に対して何らの利益又は不利益をもたらすものではないこと。</p> <p>十三 インフォームド・コンセントを受けた後少なくとも三十日間はヒト受精卵が<u>提供医療機関</u>において保存されること及びその方法並びに当該ヒト受精卵が保存されている間は、インフォームド・コンセントの撤回が可能であること及びその方法（再同意手続の場合においては、再同意を受けた後少なくとも三十日間は当該再同意手続に係るヒト受精卵又はヒトES細胞の取扱いを行わないこと。）</p> <p>十四 インフォームド・コンセントを受けた時点で想定されない目的又は方法によってヒトES細胞を使用する必要性が生じることにより、再同意手続を行う可能性がある場合にあっては、次に掲げる事項</p> <p>イ 再同意手続を行う可能性があること。</p> <p>ロ 再同意手続を行うことについてあらかじめ同意を受けている場合に限り、当該再同意手続を行うこと及びその方法</p>	<p>三 予想されるヒトES細胞の使用方法及び成果</p> <p>四 樹立計画のこの指針に対する適合性が<u>第一種樹立機関</u>、<u>第一種提供医療機関</u>及び主務大臣により確認されていること。</p> <p>五 <u>ヒト受精卵</u>の提供者の個人情報が<u>第一種樹立機関</u>に移送されないことその他個人情報の保護の具体的な方法（匿名化の方法を含む。）</p> <p>六 <u>ヒト受精卵</u>の提供が無償で行われるため、提供者が将来にわたり報酬を受けることのないこと。</p> <p>七 ヒトES細胞について遺伝子の解析が行われる可能性がある場合には、その旨及びその遺伝子の解析が特定の個人を識別するものではないこと。</p> <p>八 ヒトES細胞から生殖細胞を作成する可能性がある場合には、その旨及び当該生殖細胞を用いてヒト胚を作成しないこと。</p> <p>九 提供されたヒト受精卵から樹立したヒトES細胞に関する情報を<u>当該ヒト受精卵</u>の提供者に開示しないこと。</p> <p>十 ヒトES細胞の樹立の過程及びヒトES細胞を使用する研究から得られた研究成果が<u>学会等</u>で公開される可能性のあること。</p> <p>十一 ヒトES細胞が<u>第一種樹立機関</u>において長期間維持管理されるとともに、<u>使用機関</u>又は<u>臨床利用機関</u>に<u>無償</u>で分配をされること。</p> <p>十二 ヒトES細胞（分化細胞を含む。）から有用な成果が得られた場合には、その成果から特許権、著作権その他の無体財産権又は経済的利益が生ずる可能性があること及びこれらが<u>ヒト受精卵</u>の提供者に帰属しないこと。</p> <p>十三 提供すること又はしないことの意味表示が<u>ヒト受精卵</u>の提供者に対して何らの利益又は不利益をもたらすものではないこと。</p> <p>十四 同意を受けた後少なくとも三十日間はヒト受精卵が<u>第一種提供医療機関</u>において保存されること及びその方法、並びに当該ヒト受精卵が保存されている間は、同意の撤回が可能であること及びその方法（再同意手続の場合においては、同意を受けた後少なくとも三十日間は当該再同意手続に係るヒト受精卵又はヒトES細胞の取扱いを行わないこと。）</p> <p>十五 <u>第六条第一項第一号に掲げる要件の範囲内</u>において、同意を受けた時点で想定されない目的又は方法によってヒトES細胞を使用する必要性が生じることにより、再同意手続を行う可能性がある場合にあっては、次に掲げる事項</p> <p>イ 再同意手続を行う可能性があること</p> <p>ロ 再同意手続を行うことについてあらかじめ同意を受けている場合に限り、当該再同意手続を行うこと及びその方法</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>ハ 再同意手続を行うことに関する同意の撤回が可能であること及びその方法 [号を削る。]</p> <p>4 <u>樹立機関</u>は、第一項の説明を実施するときは、提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、前項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書を提供者に、その写しを<u>提供医療機関</u>にそれぞれ交付するものとする。</p> <p>[項を削る。]</p>	<p>ハ 再同意手続を行うことに関する同意の撤回が可能であること及びその方法 十六 その他必要な事項</p> <p>4 <u>第一種樹立機関</u>は、第一項の説明を実施するときは、<u>ヒト受精卵</u>の提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、前項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書(次条第一項において「説明実施書」という。)を<u>ヒト受精卵</u>の提供者に、その写しを<u>第一種提供医療機関</u>にそれぞれ交付するものとする。</p> <p>5 <u>第一種樹立機関</u>は、最新の科学的知見を踏まえ、正確に第一項の説明を行うものとする。</p>
<p>(ヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの確認)</p> <p>第二十条 <u>提供医療機関</u>の長は、樹立計画に基づくインフォームド・コンセントの受取の適切な実施に関して、第十八条第一項の書面による<u>同意書</u>を確認するとともに、当該<u>提供医療機関</u>の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</p> <p>2 <u>提供医療機関</u>の長は、ヒト受精卵を<u>樹立機関</u>に移送するときは、前項の確認を行ったことを文書で<u>樹立機関</u>に通知するものとする。</p> <p>3 前項の通知を受けた場合には、<u>樹立機関</u>の長は、当該通知の写しを主務大臣に提出するものとする。</p>	<p>(<u>第一種樹立</u>に必要なヒト受精卵の提供に係るインフォームド・コンセントの確認)</p> <p>第二十六条 <u>第一種提供医療機関</u>の長は、樹立計画に基づくインフォームド・コンセントの受取の適切な実施に関して、第二十四条第二項の書面並びに前条第三項の説明書及び説明実施書を確認するとともに、当該<u>第一種提供医療機関</u>の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</p> <p>2 <u>第一種提供医療機関</u>の長は、ヒト受精卵を<u>第一種樹立機関</u>に移送するときは、前項の確認を行ったことを文書で<u>第一種樹立機関</u>に通知するものとする。</p> <p>3 前項の通知を受けた場合には、<u>第一種樹立機関</u>の長は、当該通知の写しを主務大臣に提出するものとする。</p>
<p>(ヒト受精卵の提供者の個人情報の保護)</p> <p>第二十一条 ヒトES細胞の<u>樹立</u>に携わる者は、提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。</p> <p>2 前項の趣旨に鑑み、<u>提供医療機関</u>は、ヒト受精卵を<u>樹立機関</u>に移送するときは、<u>提供医療機関</u>以外の機関において当該ヒト受精卵とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。</p>	<p>(ヒト受精卵の提供者の個人情報の保護)</p> <p>第二十七条 <u>第一種樹立</u>に携わる者は、<u>ヒト受精卵</u>の提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。</p> <p>2 前項の趣旨に鑑み、<u>第一種提供医療機関</u>は、ヒト受精卵を<u>第一種樹立機関</u>に移送するときは、<u>第一種提供医療機関</u>以外の機関において当該ヒト受精卵とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。</p>
<p align="center">第六章 ヒトES細胞の分配 [節を削る。]</p>	<p align="center">第四章 ヒトES細胞の分配 第一節 分配の要件</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(分配に供されるヒトES細胞の要件)</p> <p>第四十条 分配に供されるヒトES細胞は、次に掲げる要件を満たすものに限るものとする。</p> <p>一 この指針に基づき樹立されたヒトES細胞であること。</p> <p>二 必要な経費を除き、無償で譲渡されたものであること。</p>
<p>(分配の要件)</p> <p>第二十二条 <u>樹立機関</u>は、<u>分配機関</u>へのヒトES細胞の寄託のほか、<u>使用機関</u>又は<u>海外機関</u>にヒトES細胞を分配することができるものとする。</p> <p>[号を削る。]</p> <p>2 前項に規定するヒトES細胞の分配は、必要な経費を除き、無償で行うものとする。</p> <p>3 <u>樹立機関</u>は、<u>ヒトES細胞の使用に関する指針</u>(平成三十一年文部科学省告示第六十八号)に基づく使用</p>	<p>(分配の要件)</p> <p>第四十一条 ヒトES細胞の分配(海外使用機関に対する分配を除く。)は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 ES分配使用指針に基づき使用計画を実施する使用機関に対してのみ分配をすること。</p> <p>二 必要な経費を除き、無償で分配をすること。</p> <p>2 <u>樹立機関</u>は、<u>ES分配使用指針</u>に基づく使用計画を実施する使用機関がヒトES細胞の分配を要求した</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>計画を実施する使用機関がヒトES細胞の分配を要求した場合には、やむを得ない場合を除き、分配するものとする。</p>	<p>場合には、やむを得ない場合を除き、分配をするものとする。</p>
<p>(海外機関に対する分配) <u>第二十三条</u> 樹立機関による海外機関へのヒトES細胞の分配は、分配先との契約その他の方法により、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。 [号を削る。]</p> <p>[号を削る。]</p>	<p>(海外使用機関に対する分配の要件) <u>第四十二条</u> 海外使用機関に対するヒトES細胞の分配は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。 <u>一</u> 第四十四条第五項に規定する文部科学大臣の確認を受けた海外分配計画に基づき契約を締結した海外使用機関に対してのみ分配をすること。 <u>二</u> 必要な経費を除き、無償で分配をすること。</p>
<p>[節を削る。]</p>	<p align="center">第二節 海外使用機関に対する分配</p>
<p><u>一</u> 分配するヒトES細胞の使用が、当該海外機関が存する国又は地域の制度等に基づき承認されたものであること。</p> <p><u>二</u> ヒトES細胞の取扱いについて、当該海外機関が存する国又は地域の制度等を遵守すること。</p> <p><u>三</u> 分配を受けたヒトES細胞を、他の機関に対して分配しないこと。 [号を削る。]</p> <p><u>四</u> ヒトES細胞を使用して作成した胚の人又は動物の胎内への移植その他の方法による個体の生成、ヒト胚及びヒトの胎児へのヒトES細胞の導入並びにヒトES細胞から作成した生殖細胞を用いたヒト胚の作成を行わないこと。</p> <p><u>五</u> 基礎的研究及び医療目的以外の利用を行わないこと。 [号を削る。]</p> <p><u>六</u> 人クローン胚を用いて樹立されたヒトES細胞を分配しようとする場合、個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 [号を削る。]</p> <p><u>七</u> 前各号に掲げる要件に反することとなった場合においては、直ちにヒトES細胞の使用を終了すること。</p>	<p><u>第四十四条</u> <u>3</u> 樹立責任者は、分配をする海外使用機関のヒトES細胞の使用が当該海外使用機関が存する国の法令又はこれに類するガイドラインに基づき承認されたものであることを示す書類の写し及びその日本語による翻訳文を、海外分配計画書に添付するものとする。 (海外使用機関の基準) <u>第四十三条</u> 海外分配計画については、当分の間、次に掲げる要件を満たす海外使用機関に対する分配について策定するものとする。 <u>一</u> ヒトES細胞及び分化細胞の取扱いについて、当該海外使用機関が存する国の法令又はこれに類するガイドラインを遵守すること。 <u>二</u> 分配を受けたヒトES細胞を、他の機関に対して分配又は譲渡をしないこと。 <u>三</u> ヒトES細胞の使用を終了したときは、残余のヒトES細胞を、当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関との合意に基づき廃棄し、又は当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関に返還若しくは譲渡すること。 <u>四</u> ヒトES細胞を使用して作成した胚の人又は動物の胎内への移植その他の方法による個体の生成、ヒト胚及びヒトの胎児へのヒトES細胞の導入並びにヒトES細胞から作成した生殖細胞を用いたヒト胚の作成を行わないこと。 <u>五</u> 商業目的の利用を行わないこと。 <u>六</u> 人体に適用する臨床研究その他医療及びその関連分野における使用を行わないこと。 <u>七</u> 個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 <u>八</u> その他ヒトES細胞の適切な取扱いに必要な措置を講ずること。 <u>九</u> この条に定める海外分配計画の基準に反することとなった場合においては、ヒトES細胞の分配をした樹立機関にヒトES細胞を返還又は譲渡すること。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p><u>2</u> 樹立責任者は、海外機関に対してヒトES細胞を分配したときは、分配の状況を記載した報告書を作成し、樹立機関の長に提出するものとする。</p> <p><u>3</u> 樹立機関の長は、前項の報告書の提出を受けたときは、速やかに、その写しを樹立機関の倫理審査委員会及び文部科学大臣に提出するものとする。</p>	<p>[項を加える。]</p> <p>[項を加える。]</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p align="center">(海外使用機関に対する分配の手続)</p> <p><u>第四十四条</u> 樹立責任者は、海外使用機関にヒトES細胞の分配をするに当たっては、あらかじめ、海外分配計画書を作成し、海外分配計画の実施について当該樹立機関の長の了承を求めるものとする。</p> <p><u>2</u> 海外分配計画書には、次に掲げる事項を記載するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海外分配計画の名称 二 樹立機関の名称及び所在地並びに樹立機関の長の氏名 三 樹立責任者の氏名 四 分配をする海外使用機関の名称及びその所在地並びに国名 五 分配の方法 六 分配をする海外使用機関の使用の期間 七 分配に供されるヒトES細胞の入手先及びヒトES細胞株の名称 八 海外使用機関の基準に関する説明 九 その他必要な事項 <p><u>3</u> 樹立責任者は、分配をする海外使用機関のヒトES細胞の使用が当該海外使用機関が存する国の法令又はこれに類するガイドラインに基づき承認されたものであることを示す書類の写し及びその日本語による翻訳文を、海外分配計画書に添付するものとする。</p> <p><u>4</u> 樹立機関の長は、第一項の了承を求められたときは、その妥当性について当該機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき海外分配計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p> <p><u>5</u> 樹立機関の長は、海外分配計画の実施を了承するに当たっては、前項の手続の終了後、当該海外分配計画のこの指針に対する適合性について、文部科学大臣の確認を受けるものとする。</p> <p><u>6</u> 前項の場合には、樹立機関の長は、次に掲げる書類を文部科学大臣に提出するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海外分配計画書 二 樹立機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類 <p><u>7</u> 文部科学大臣は、海外分配計画のこの指針に対する適合性について、科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p>
<p align="center"><u>第七章</u> 人クローン胚使用樹立</p>	<p align="center">[章を加える。]</p>
<p align="center">(人クローン胚使用樹立の要件)</p> <p><u>第二十四条</u> 人クローン胚を用いたヒトES細胞の樹立(以下「人クローン胚使用樹立」という。)は、特定</p>	<p><u>第六条</u></p> <p><u>2</u> ヒトES細胞の第二種樹立は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>胚の取扱いに関する指針(平成三十一年文部科学省告示第三十一号。以下「特定胚指針」という。)第六条第二項に規定する基礎的研究を目的としたヒトES細胞の使用の方針が示され、かつ、新たにヒトES細胞を樹立することが当該方針に照らして科学的合理性及び必要性を有する場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>2 <u>人クローン胚使用樹立の用に供される人クローン胚は、特定胚指針に基づいて作成されたものに限るものとする。</u></p> <p>3 <u>人クローン胚使用樹立機関における未受精卵等の取扱い</u>は、医師又は医師の指導により適切に行われるものとする。</p>	<p>一 ES分配使用指針第二十一条第二項第一号に規定する使用の要件を満たしたヒトES細胞の使用の方針が示されていること。</p> <p>二 新たにヒトES細胞を樹立することが、前号に定める使用の方針に照らして科学的合理性及び必要性を有すること。</p> <p>第七条</p> <p>4 <u>第二種樹立の用に供される人クローン胚は、特定胚の取扱いに関する指針(平成二十一年文部科学省告示第八十三号。以下「特定胚指針」という。)に基づいて作成されたものに限るものとする。</u></p> <p><u>第八条 樹立機関におけるヒト胚及び未受精卵の取扱い</u>は、医師又は医師の指導により適切に行われるものとする。</p>
<p align="center">(人クローン胚使用樹立の体制等)</p> <p><u>第二十五条</u> 人クローン胚使用樹立についての第九条から第十二条までの適用については、第九条第二項第十二号、第十条第二項から第四項まで及び第十二条第三項第二号中「提供医療機関」とあるのは「未受精卵等提供医療機関及び体細胞提供機関」と、第九条第三項第二号中「第十九条第三項」とあるのは「第二十九条第一項」と、第十一条第二項第二号及び第三号中「及び提供医療機関」とあるのは「未受精卵等提供医療機関及び体細胞提供機関」と、第十二条第二項中「提供医療機関」とあるのは「未受精卵等提供医療機関又は体細胞提供機関」と読み替えるものとする。</p>	<p>[条を加える。]</p>
<p align="center">[節を削る。]</p>	<p align="center">第二節 第二種樹立に必要な未受精卵等の提供</p>
<p align="center">(未受精卵等提供医療機関の基準)</p> <p><u>第二十六条</u> 未受精卵等提供医療機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 未受精卵等の取扱いに関して十分な実績及び能力を有すること。</p> <p>二 倫理審査委員会が設置されていること。</p> <p>三 未受精卵等の提供者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。</p> <p>四 未受精卵等を提供することについての意思の確認の方法その他未受精卵等の取扱いに関する手続が明確に定められていること。</p> <p>2 未受精卵等の提供者が未受精卵等提供医療機関において医療を受けている場合には、未受精卵等提供医療機関は、説明担当医師(未受精卵等の提供者に対し、当該提供の方法及び提供後の取扱いに関する説明を行う者であって、産科及び婦人科の診療に優れた識見を有する医師をいう。)及びコーディネータ(未受精卵等の提供者に対し、当該提供に関する情報提供、相談及び関係者間の調整を行う者であって、未受精卵等の提供者と利害関係がなく、人クローン胚使用樹立並びに産科及び婦人科の診療に優れた識見を有する者をいう。)を配置するものとする。</p>	<p align="center">(第二種提供医療機関の基準)</p> <p><u>第二十八条</u> 第二種提供医療機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 未受精卵等の取扱いに関して十分な実績及び能力を有すること。</p> <p>二 倫理審査委員会が設置されていること。</p> <p>三 未受精卵等を提供する者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。</p> <p>四 未受精卵等を提供することについての意思の確認の方法その他ヒト受精卵の取扱いに関する手続が明確に定められていること。</p> <p>2 未受精卵等の提供者が第二種提供医療機関において医療を受けている場合には、第二種提供医療機関は、説明担当医師(未受精卵等の提供者に対し、当該提供の方法及び提供後の取扱いに関する説明を行う者であって、産科及び婦人科の診療に優れた識見を有する医師をいう。)及びコーディネータ(未受精卵等の提供者に対し、当該提供に関する情報提供、相談及び関係者間の調整を行う者であって、提供者と利害関係がなく、第二種樹立並びに産科及び婦人科の診療に優れた識見を有する者をいう。)を配置するものとする。</p>
<p align="center">(未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会)</p> <p><u>第二十七条</u> 未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会は、この指針に即して、樹立計画の科学的妥当性及び</p>	<p align="center">(第二種提供医療機関の倫理審査委員会)</p> <p><u>第二十九条</u> 第二種提供医療機関の倫理審査委員会は、この指針に即して、樹立計画又はその変更の科学的妥</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して<u>未受精卵等提供医療機関の長</u>に対し意見を提出する業務を行うものとする。</p> <p>2 <u>未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会</u>は、前項の審査の記録を作成し、これを保管するものとする。</p> <p>3 <u>未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会</u>は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 <u>樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、次に掲げる要件の全てを満たしていること。なお、イからハまでに掲げる者については、それぞれ他を同時に兼ねることはできない。会議の成立についても同様の要件とする。</u></p> <p><u>イ 生物学・医学の専門家等、自然科学の有識者が含まれていること。</u></p> <p><u>ロ 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者が含まれていること。</u></p> <p><u>ハ 一般の立場に立って意見を述べられる者が含まれていること。</u></p> <p><u>ニ 当該未受精卵等提供医療機関が属する法人に所属する者以外の者が二名以上含まれていること。</u></p> <p><u>ホ 五名以上で構成され、男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれていること。</u></p> <p><u>ヘ 当該樹立計画を実施する研究者等又は樹立責任者との間に利害関係を有する者が審査に参画しないこと。</u></p> <p>[号を削る。]</p> <p><u>二 当該倫理審査委員会に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。</u></p> <p><u>三 第一号イに掲げる者に、再生医療に関して識見を有する者及び未受精卵等の提供者の受ける医療に関して優れた識見を有する医師が含まれていること。</u></p> <p><u>四 委員の過半数が人クローン胚使用樹立機関に所属していない者であること。</u></p> <p>4 <u>未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会の議事の内容は、当該倫理審査委員会に関する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、公開するものとする。</u></p>	<p>当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して<u>第二種提供医療機関の長</u>に対し意見を提出する業務を行うものとする。</p> <p>2 <u>第二種提供医療機関の倫理審査委員会</u>は、前項の審査の<u>過程</u>の記録を作成し、これを保管するものとする。</p> <p>3 <u>第二種提供医療機関の倫理審査委員会</u>は、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 <u>樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、生物学、医学及び法律に関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立って意見を述べられる者から構成されていること。</u></p> <p>[イを加える。]</p> <p>[ロを加える。]</p> <p>[ハを加える。]</p> <p><u>二 当該第二種提供医療機関が属する法人に所属する者以外の者が二名以上含まれていること。</u></p> <p><u>三 男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれていること。</u></p> <p><u>四 当該樹立計画を実施する研究者、樹立責任者との間に利害関係を有する者及び樹立責任者の三親等以内の親族が審査に参画しないこと。</u></p> <p><u>五 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障されるよう適切な運営手続が定められていること。</u></p> <p><u>六 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにその議事の内容の公開その他樹立計画の審査に必要な手続に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。</u></p> <p><u>七 第一号の医学に関する専門家に、再生医療に関して識見を有する者及び未受精卵等の提供者の受ける医療に関して優れた識見を有する医師が含まれていること。</u></p> <p><u>八 委員の過半数が第二種樹立機関に所属していない者であること。</u></p> <p>4 <u>倫理審査委員会の運営に当たっては、前項第六号に規定する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、議事の内容について公開するものとする。</u></p>
<p>(未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの手続)</p> <p><u>第二十八条 未受精卵等提供医療機関は、未受精卵等の提供者その他提供の意思を確認すべき者（以下「未受精卵等提供者等」という。）のインフォームド・コンセントを書面により受けるものとする。</u></p> <p>[項を削る。]</p> <p><u>2 未受精卵等提供医療機関は、インフォームド・コンセントを受取るに当たり、未受精卵等提供者等の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。</u></p> <p>一 <u>未受精卵等提供者等が置かれている立場を不当に利用しないこと。</u></p> <p>二 <u>同意の能力を欠く者及び人クローン胚使用樹立を実施する者その他の関係者に未受精卵等の提供を依</u></p>	<p>(第二種樹立に必要な未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの手続)</p> <p><u>第三十条 第二種提供医療機関は、未受精卵等を第二種樹立に用いることについて、当該第二種樹立に必要な未受精卵等の提供者その他提供の意思を確認すべき者（以下この節において「提供者等」という。）のインフォームド・コンセントを受取るものとする。</u></p> <p><u>2 前項のインフォームド・コンセントは書面により表示されるものとする。</u></p> <p><u>3 第二種提供医療機関は、第一項のインフォームド・コンセントを受取るに当たり、提供者等の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。</u></p> <p>一 <u>提供者等が置かれている立場を不当に利用しないこと。</u></p> <p>二 <u>同意の能力を欠く者及び第二種樹立を実施する者その他の関係者に未受精卵等の提供を依頼しないこ</u></p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>頼しないこと。</p> <p>三 未受精卵等提供者等による未受精卵等を廃棄することについての意思が事前に確認されていること。</p> <p>四 未受精卵等提供者等が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。</p> <p>五 インフォームド・コンセントを受けた後少なくとも三十日間は、当該未受精卵等を<u>人クローン胚使用樹立機関</u>に移送しないこと。</p> <p>六 未受精卵等（凍結されたものを除く。）の提供を受ける場合には、未受精卵等の提供者が過去に生殖補助医療を受けた経験のある者であること及び未受精卵等の提供者から事前に提供の申出があったことを確認すること。</p> <p>七 <u>未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会の委員又は当該倫理審査委員会が指定する者（当該人クローン胚使用樹立に関与する者でなく、かつ、未受精卵等の提供者と利害関係を有しない者に限る。）</u>が、未受精卵等の提供者に面接してその提供の同意に係る手続の適切性を確認していること（凍結された未受精卵の提供を受ける場合及び未受精卵等の提供者の生殖補助医療が終了した後にヒト受精卵の提供を受ける場合を除く。）。</p>	<p>と。</p> <p>三 提供者等による未受精卵等を廃棄することについての意思が事前に確認されていること。</p> <p>四 提供者等が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。</p> <p>五 インフォームド・コンセントの受取後少なくとも三十日間は、当該未受精卵等を<u>第二種樹立機関</u>に移送しないこと。</p> <p>六 <u>特定胚指針第九条第五項第二号又は第三号に掲げる未受精卵等（凍結されたものを除く。）</u>の提供を受ける場合には、未受精卵等の提供者が過去に生殖補助医療を受けた経験のある者であること及び未受精卵等の提供者から事前に提供の申出があったことを確認すること。</p> <p>七 倫理審査委員会の委員又は倫理審査委員会が指定する者（当該<u>第二種樹立</u>に関与する者でなく、かつ、未受精卵等の提供者と利害関係を有しない者に限る。）が、未受精卵等の提供者に面接してその提供の同意に係る手続の適切性を確認していること（凍結された未受精卵の提供を受ける場合及び未受精卵等の提供者の生殖補助医療が終了した後にヒト受精卵の提供を受ける場合を除く。）。</p>
<p>(未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの説明)</p> <p><u>第二十九条</u> インフォームド・コンセントに係る説明は、<u>当該人クローン胚使用樹立機関に所属する者（樹立責任者を除く。）のうちから、当該人クローン胚使用樹立機関の長が指名する者が、特定胚指針第七条第二項各号に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分かりやすく、これを行うものとする。</u></p> <p>[項を削る。]</p> <p>[項を削る。]</p> <p><u>2</u> <u>人クローン胚使用樹立機関は、前項の説明を実施するときは、未受精卵等の提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、同項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書を未受精卵等提供者等に、その写しを未受精卵等提供医療機関にそれぞれ交付するものとする。</u></p> <p>[項を削る。]</p>	<p>(<u>第二種樹立に必要な未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの説明</u>)</p> <p><u>第三十一条</u> <u>前条第一項のインフォームド・コンセントに係る説明は、特定胚指針第十条第二項の規定に基づき行うものとする。</u></p> <p><u>2</u> <u>第二種樹立機関は、当該第二種樹立機関に所属する者（樹立責任者を除く。）のうちから、当該第二種樹立機関の長が指名する者に前項の説明を実施させるものとする。</u></p> <p><u>3</u> <u>前項の規定により第二種樹立機関の長の指名を受けた者は、第一項の説明を実施するに当たり、提供者等に対し、特定胚指針第十条第二項各号に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分かりやすく、これを行うものとする。</u></p> <p><u>4</u> <u>第二種樹立機関は、第一項の説明を実施するときは、未受精卵等の提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、前項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書（次条第一項において「説明実施書」という。）を提供者等に、その写しを第二種提供医療機関にそれぞれ交付するものとする。</u></p> <p><u>5</u> <u>第二種樹立機関は、最新の科学的知見を踏まえ、正確に第一項の説明を行うものとする。</u></p>
<p>(未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの確認)</p> <p><u>第三十条</u> <u>未受精卵等提供医療機関の長は、樹立計画に基づくインフォームド・コンセントの受取の適切な実施に関して、第二十八条第一項の書面による同意書を確認するとともに、当該未受精卵等提供医療機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</u></p> <p><u>2</u> <u>未受精卵等提供医療機関の長は、未受精卵等を人クローン胚使用樹立機関に移送するときには、前項の確認を行ったことを文書で人クローン胚使用樹立機関に通知するものとする。</u></p>	<p>(<u>第二種樹立に必要な未受精卵等の提供に係るインフォームド・コンセントの確認</u>)</p> <p><u>第三十二条</u> <u>第二種提供医療機関の長は、樹立計画に基づくインフォームド・コンセントの受取の適切な実施に関して、第三十条第二項の書面、前条第三項の説明書及び説明実施書を確認するとともに、当該第二種提供医療機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</u></p> <p><u>2</u> <u>第二種提供医療機関の長は、未受精卵等を第二種樹立機関に移送するときには、前項の確認を行ったことを文書で第二種樹立機関に通知するものとする。</u></p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>3 前項の通知を受けた場合には、<u>人クローン胚使用樹立機関</u>の長は、当該通知の写しを文部科学大臣に提出するものとする。</p>	<p>3 前項の通知を受けた場合には、<u>第二種樹立機関</u>の長は、当該通知の写しを文部科学大臣に提出するものとする。</p>
<p>(未受精卵等の提供者の個人情報の保護) <u>第三十一条</u> 人クローン胚使用樹立に携わる者は、未受精卵等の提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。 2 前項の趣旨に鑑み、<u>未受精卵等提供医療機関</u>は、未受精卵等を人クローン胚使用樹立機関に移送するときには、当該未受精卵等とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。</p>	<p>(未受精卵等の提供者の個人情報の保護) <u>第三十三条</u> <u>第二種樹立</u>に携わる者は、未受精卵等の提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。 2 前項の趣旨に鑑み、<u>第二種提供医療機関</u>は、未受精卵等を<u>第二種樹立機関</u>に移送するときには、当該未受精卵等とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。</p>
<p align="center">[節を削る。]</p>	<p align="center">第三節 第二種樹立に必要なヒトの体細胞の提供</p>
<p>(体細胞提供機関の基準) <u>第三十二条</u> 体細胞提供機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 倫理審査委員会が設置されていること。 二 体細胞の提供者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 三 <u>特定胚指針第六条第六項第一号又は第三号</u>に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、医療機関であること。 四 <u>特定胚指針第六条第六項第三号</u>に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、体細胞の採取に相当の経験を有し、かつ、提供者と利害関係を有しない医師を有すること。</p>	<p>(体細胞提供機関の基準) <u>第三十四条</u> 体細胞提供機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 倫理審査委員会が設置されていること。 二 体細胞を提供する者の個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。 三 <u>特定胚指針第九条第六項第一号又は第三号</u>に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、医療機関であること。 四 <u>特定胚指針第九条第六項第三号</u>に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、体細胞の採取に相当の経験を有し、かつ、提供者と利害関係を有しない医師を有すること。</p>
<p>(体細胞提供機関の倫理審査委員会) <u>第三十三条</u> 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、この指針に即して、樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して体細胞提供機関の長に対し意見を提出する業務を行うものとする。 2 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、前項の審査の記録を作成し、これを保管するものとする。 3 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 <u>樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、次に掲げる要件の全てを満たしていること。なお、イからハまでに掲げる者については、それぞれ他を同時に兼ねることはできない。会議の成立についても同様の要件とする。</u> <u>イ</u> <u>生物学・医学の専門家等、自然科学の有識者が含まれていること。</u> <u>ロ</u> <u>倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者が含まれていること。</u> <u>ハ</u> <u>一般の立場に立って意見を述べられる者が含まれていること。</u> <u>ニ</u> <u>五名以上で構成され、男性及び女性がそれぞれ一名以上含まれていること。</u> <u>ホ</u> <u>当該樹立計画を実施する研究者等又は樹立責任者が審査に参画しないこと。</u> [号を削る。] <u>ニ</u> 体細胞提供機関の倫理審査委員会に関する規則が定められ、かつ、当該規則が公開されていること。</p>	<p>(体細胞提供機関の倫理審査委員会) <u>第三十五条</u> 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、この指針に即して、樹立計画又はその変更の科学的妥当性及び倫理的妥当性について総合的に審査を行い、その適否、留意事項、改善事項等に関して体細胞提供機関の長に対し意見を提出する業務を行うものとする。 2 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、前項の審査の<u>過程</u>の記録を作成し、これを保管するものとする。 3 体細胞提供機関の倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすものとする。 一 <u>樹立計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総合的に審査できるよう、医学及び法律に関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立って意見を述べられる者から構成されていること。</u> [イを加える。] [ロを加える。] [ハを加える。] <u>ニ</u> 男性及び女性がそれぞれ一名以上含まれていること。 <u>三</u> 当該樹立計画を実施する研究者が審査に参画しないこと。 <u>四</u> 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障されるよう適切な運営手続が定められていること。 <u>五</u> 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにその議事の内容の公開その他樹立計画の審査に必要な手</p>

<p style="text-align: center;">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p style="text-align: center;">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>4 体細胞提供機関の倫理審査委員会の議事の内容は、当該倫理審査委員会に関する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、公開するものとする。</p>	<p>4 倫理審査委員会の運営に当たっては、前項第五号に規定する規則により非公開とすることが定められている事項を除き、議事の内容について公開するものとする。</p>
<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの手続)</p> <p><u>第三十四条</u> 体細胞提供機関は、体細胞の提供者その他当該体細胞の提供の意思を確認すべき者（以下「体細胞提供者等」という。）のインフォームド・コンセントを書面により受けるものとする。ただし、特定胚指針第六条第六項第二号に掲げる体細胞であって、当該体細胞の提供者に係る情報がないものの提供を受ける場合には、この限りでない。</p> <p>[項を削る。]</p> <p><u>2</u> 体細胞提供機関は、インフォームド・コンセントを受けるに当たり、<u>体細胞提供者等</u>の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 同意の能力を欠く者及び人クローン胚使用樹立を実施する者その他の関係者に提供を依頼しないこと。</p> <p>二 <u>体細胞提供者等</u>が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。</p> <p>三 インフォームド・コンセントを受けた後少なくとも三十日間は、当該体細胞を<u>人クローン胚使用樹立機関</u>に移送しないこと。</p> <p>四 特定胚指針第六条第六項第三号に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、次に掲げる要件の全てを満たしていることを確認すること。</p> <p>イ 体細胞の提供者から事前に提供の申出があること。</p> <p>ロ 体細胞提供機関の倫理審査委員会の委員又は当該倫理審査委員会が指定する者（当該人クローン胚使用樹立に関与する者でなく、かつ、体細胞の提供者と利害関係を有しない者に限る。）が、体細胞の提供者に面接してその提供の同意に係る手続の適切性を確認していること。</p>	<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの手続)</p> <p><u>第三十六条</u> 体細胞提供機関は、体細胞を第二種樹立に用いることについて、当該第二種樹立に必要な体細胞の提供者その他当該体細胞の提供の意思を確認すべき者（以下この節において「提供者等」という。）のインフォームド・コンセントを受けるものとする。ただし、特定胚指針第九条第六項第二号に掲げる体細胞であって、当該体細胞の提供者に係る情報がないものの提供を受ける場合には、この限りでない。</p> <p><u>2</u> 前項のインフォームド・コンセントは、書面により表示されるものとする。</p> <p><u>3</u> 体細胞提供機関は、<u>第一項</u>のインフォームド・コンセントを受けるに当たり、<u>提供者等</u>の心情に十分配慮するとともに、次に掲げる要件を満たすものとする。</p> <p>一 同意の能力を欠く者及び第二種樹立を実施する者その他の関係者に提供を依頼しないこと。</p> <p>二 <u>提供者等</u>が提供するかどうか判断するために必要な時間的余裕を有すること。</p> <p>三 インフォームド・コンセントの受取後少なくとも三十日間は、当該体細胞を<u>第二種樹立機関</u>に移送しないこと。</p> <p>四 特定胚指針第九条第六項第三号に掲げる体細胞の提供を受ける場合には、次に掲げる要件の全てを満たしていることを確認すること。</p> <p>イ 体細胞の提供者から事前に提供の申出があること。</p> <p>ロ 体細胞提供機関の倫理審査委員会の委員又は当該倫理審査委員会が指定する者（当該第二種樹立に関与する者でなく、かつ、体細胞の提供者と利害関係を有しない者に限る。）が、体細胞の提供者に面接してその提供の同意に係る手続の適切性を確認していること。</p>
<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの説明)</p> <p><u>第三十五条</u> 前条第一項のインフォームド・コンセントに係る説明は、特定胚指針第八条第一項の規定により読み替えて準用する特定胚指針<u>第七条</u>第二項並びに<u>第八条</u>第二項及び第三項の規定に基づき行うものとする。</p> <p>2 <u>人クローン胚使用樹立機関</u>が前項の説明を行う場合には、当該人クローン胚使用樹立機関に所属する者（樹立責任者を除く。）のうちから、当該人クローン胚使用樹立機関の長が指名する者に前項の説明を実施させるものとする。</p> <p>3 体細胞提供機関の説明者及び前項の規定により<u>人クローン胚使用樹立機関</u>の長の指名を受けた者は、第一項の説明を実施するに当たり、<u>体細胞提供者等</u>に対し、特定胚指針<u>第八条</u>第一項の規定により読み替えて準用する特定胚指針<u>第七条</u>第二項各号及び<u>第八条</u>第二項各号に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分</p>	<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの説明)</p> <p><u>第三十七条</u> 前条第一項のインフォームド・コンセントに係る説明は、特定胚指針<u>第十一条</u>第一項の規定により読み替えて準用する特定胚指針<u>第十条</u>第二項並びに<u>第十一条</u>第二項及び第三項の規定に基づき行うものとする。</p> <p>2 <u>第二種樹立機関</u>が前項の説明を行う場合には、当該第二種樹立機関に所属する者（樹立責任者を除く。）のうちから、当該第二種樹立機関の長が指名する者に前項の説明を実施させるものとする。</p> <p>3 体細胞提供機関の説明者及び前項の規定により<u>第二種樹立機関</u>の長の指名を受けた者は、第一項の説明を実施するに当たり、提供者等に対し、特定胚指針<u>第十一条</u>第一項の規定により読み替えて準用する特定胚指針<u>第十条</u>第二項各号及び<u>第十一条</u>第二項各号に掲げる事項を記載した説明書を提示し、分かりやすく、こ</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>かりやすく、これを行うものとする。</p> <p>4 <u>人クローン胚使用樹立機関</u>は、第一項の説明を実施するときは、体細胞の提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、前項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書を<u>体細胞提供者等</u>に、その写しを体細胞提供機関にそれぞれ交付するものとする。</p> <p>[項を削る。]</p>	<p>れを行うものとする。</p> <p>4 <u>第二種樹立機関</u>は、第一項の説明を実施するときは、体細胞の提供者の個人情報を保護するため適切な措置を講ずるとともに、前項の説明書及び当該説明を実施したことを示す文書(次条第一項において「<u>説明実施書</u>」という。)を提供者等に、その写しを体細胞提供機関にそれぞれ交付するものとする。</p> <p><u>5</u> 体細胞提供機関及び第二種樹立機関は、最新の科学的知見を踏まえ、正確に第一項の説明を行うものとする。</p>
<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの確認)</p> <p><u>第三十六条</u> <u>第三十条の規定は、体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの確認について準用する。</u> <u>この場合において、同条第一項及び第二項中「未受精卵等提供医療機関」とあるのは「体細胞提供機関」と、同条第一項中「第二十八条第一項」とあるのは「第三十四条第一項」と、同条第二項中「未受精卵等」とあるのは「体細胞」と読み替えるものとする。</u></p> <p>[項を削る。]</p> <p>[項を削る。]</p>	<p>(体細胞の提供に係るインフォームド・コンセントの確認)</p> <p><u>第三十八条</u> <u>体細胞提供機関の長は、樹立計画に基づくインフォームド・コンセントの受取の適切な実施に関して、第三十六条第二項の書面、前条第三項の説明書及び説明実施書を確認するとともに、当該体細胞提供機関の倫理審査委員会の意見を聴くものとする。</u></p> <p><u>2</u> 体細胞提供機関の長は、体細胞を第二種樹立機関に移送するときには、前項の確認を行ったことを文書で第二種樹立機関に通知するものとする。</p> <p><u>3</u> 前項の通知を受けた場合には、第二種樹立機関の長は、当該通知の写しを文部科学大臣に提出するものとする。</p>
<p>(体細胞の提供者の個人情報の保護)</p> <p><u>第三十七条</u> <u>人クローン胚使用樹立に携わる者は、体細胞の提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。</u></p> <p>2 前項の趣旨に鑑み、体細胞提供機関は、体細胞を人クローン胚使用樹立機関に移送するときには、当該体細胞とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。ただし、<u>人クローン胚使用樹立機関が体細胞の提供者の疾患に係る情報を必要とする場合であって、体細胞提供機関が体細胞提供者等の同意及び体細胞提供機関の倫理審査委員会の承認を受けたときは、この限りでない。</u></p>	<p>(体細胞の提供者の個人情報の保護)</p> <p><u>第三十九条</u> <u>第二種樹立に携わる者は、体細胞の提供者の個人情報の保護に最大限努めるものとする。</u></p> <p>2 前項の趣旨に鑑み、体細胞提供機関は、体細胞を第二種樹立機関に移送するときには、当該体細胞とその提供者に関する個人情報が照合できないよう必要な措置を講ずるものとする。ただし、<u>第二種樹立機関が体細胞の提供者の疾患に係る情報を必要とする場合であって、体細胞提供機関が、提供者等の同意及び体細胞提供機関の倫理審査委員会の承認を受けたときは、この限りでない。</u></p>
<p>[章を削る。]</p> <p>[節を削る。]</p>	<p align="center"><u>第四章</u> ヒトES細胞の分配</p> <p align="center"><u>第一節</u> 分配の要件</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(分配に供されるヒトES細胞の要件)</p> <p><u>第四十条</u> 分配に供されるヒトES細胞は、次に掲げる要件を満たすものに限るものとする。</p> <p>一 この指針に基づき樹立されたヒトES細胞であること。</p> <p>二 必要な経費を除き、無償で譲渡されたものであること。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(分配の要件)</p> <p><u>第四十一条</u> ヒトES細胞の分配(海外使用機関に対する分配を除く。)は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 ES分配使用指針に基づき使用計画を実施する使用機関に対してのみ分配をすること。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
	<p>二 必要な経費を除き、無償で分配をすること。</p> <p>2 樹立機関は、ES分配使用指針に基づく使用計画を実施する使用機関がヒトES細胞の分配を要求した場合には、やむを得ない場合を除き、分配をするものとする。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(海外使用機関に対する分配の要件)</p> <p><u>第四十二条</u> 海外使用機関に対するヒトES細胞の分配は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。</p> <p>一 第四十四条第五項に規定する文部科学大臣の確認を受けた海外分配計画に基づき契約を締結した海外使用機関に対してのみ分配をすること。</p> <p>二 必要な経費を除き、無償で分配をすること。</p>
<p>[節を削る。]</p>	<p align="center"><u>第二節</u> 海外使用機関に対する分配</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(海外使用機関の基準)</p> <p><u>第四十三条</u> 海外分配計画については、当分の間、次に掲げる要件を満たす海外使用機関に対する分配について策定するものとする。</p> <p>一 ヒトES細胞及び分化細胞の取扱いについて、当該海外使用機関が存する国の法令又はこれに類するガイドラインを遵守すること。</p> <p>二 分配を受けたヒトES細胞を、他の機関に対して分配又は譲渡をしないこと。</p> <p>三 ヒトES細胞の使用を終了したときは、残余のヒトES細胞を、当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関との合意に基づき廃棄し、又は当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関に返還若しくは譲渡すること。</p> <p>四 ヒトES細胞を使用して作成した胚の人又は動物の胎内への移植その他の方法による個体の生成、ヒト胚及びヒトの胎児へのヒトES細胞の導入並びにヒトES細胞から作成した生殖細胞を用いたヒト胚の作成を行わないこと。</p> <p>五 商業目的の利用を行わないこと。</p> <p>六 人体に適用する臨床研究その他医療及びその関連分野における使用を行わないこと。</p> <p>七 個人情報の保護のための十分な措置が講じられていること。</p> <p>八 その他ヒトES細胞の適切な取扱いに必要な措置を講ずること。</p> <p>九 この条に定める海外分配計画の基準に反することとなった場合においては、ヒトES細胞の分配をした樹立機関にヒトES細胞を返還又は譲渡すること。</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(海外使用機関に対する分配の手続)</p> <p><u>第四十四条</u> 樹立責任者は、海外使用機関にヒトES細胞の分配をするに当たっては、あらかじめ、海外分配計画書を作成し、海外分配計画の実施について当該樹立機関の長の了承を求めるものとする。</p> <p>2 海外分配計画書には、次に掲げる事項を記載するものとする。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
	<p>一 海外分配計画の名称</p> <p>二 樹立機関の名称及び所在地並びに樹立機関の長の氏名</p> <p>三 樹立責任者の氏名</p> <p>四 分配をする海外使用機関の名称及びその所在地並びに国名</p> <p>五 分配の方法</p> <p>六 分配をする海外使用機関の使用の期間</p> <p>七 分配に供されるヒトES細胞の入手先及びヒトES細胞株の名称</p> <p>八 海外使用機関の基準に関する説明</p> <p>九 その他必要な事項</p> <p>3 樹立責任者は、分配をする海外使用機関のヒトES細胞の使用が当該海外使用機関が存する国の法令又はこれに類するガイドラインに基づき承認されたものであることを示す書類の写し及びその日本語による翻訳文を、海外分配計画書に添付するものとする。</p> <p>4 樹立機関の長は、第一項の了承を求められたときは、その妥当性について当該機関の倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき海外分配計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p> <p>5 樹立機関の長は、海外分配計画の実施を了承するに当たっては、前項の手續の終了後、当該海外分配計画のこの指針に対する適合性について、文部科学大臣の確認を受けるものとする。</p> <p>6 前項の場合には、樹立機関の長は、次に掲げる書類を文部科学大臣に提出するものとする。</p> <p>一 海外分配計画書</p> <p>二 樹立機関の倫理審査委員会における審査の過程及び結果を示す書類</p> <p>7 文部科学大臣は、海外分配計画のこの指針に対する適合性について、科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき確認を行うものとする。</p>
<p align="center"><u>第八章</u> 雑則</p>	<p align="center"><u>第五章</u> 雑則</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(主務大臣)</p> <p><u>第四十五条</u> この指針における主務大臣は、第六条第一項第一号イ及び同条第二項第一号に掲げる要件に該当するヒトES細胞に係るものについては文部科学大臣、同条第一項第一号ロに掲げる要件に該当するヒトES細胞に係るものについては厚生労働大臣とする。</p>
<p>(研究成果の公開)</p> <p><u>第三十八条</u> ヒトES細胞の樹立により得られた研究成果は、<u>知的財産権及び個人情報の保護等に支障が生じる場合を除き、公開するものとする。</u></p> <p>[項を削る。]</p>	<p>(研究成果の公開)</p> <p><u>第二十条</u> ヒトES細胞の樹立により得られた研究成果は、<u>原則として公開するものとする。</u></p> <p><u>2</u> 樹立機関は、ヒトES細胞の樹立により得られた研究成果を公開する場合には、当該ヒトES細胞の樹立がこの指針に適合して行われたことを明示するものとする。</p>

<p align="center">【新】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成三十一年文部科学省・厚生労働省告示第四号)</p>	<p align="center">【旧】ヒトES細胞の樹立に関する指針 (平成二十六年文部科学省・厚生労働省告示第二号)</p>
<p>[条を削る。]</p>	<p>(関係行政機関との連携) <u>第四十六条</u> 文部科学大臣及び厚生労働大臣は、ヒトES細胞の取扱いが、その関連分野と密接な関係を持つことに鑑み、情報の提供を行う等経済産業大臣と密接な連携を図るものとする。</p>
<p>(指針不適合の公表) <u>第三十九条</u> 文部科学大臣及び厚生労働大臣は、ヒトES細胞の取扱いがこの指針に定める基準に適合していないと認める者があったときは、その旨を公表するものとする。</p>	<p>(指針不適合の公表) <u>第四十七条</u> 文部科学大臣及び厚生労働大臣は、ヒトES細胞の取扱いがこの指針に定める基準に適合していないと認める者があったときは、その旨を公表するものとする。</p>
<p align="center">附 則</p>	<p align="center">附 則</p>
<p>(施行期日) 第一条 この告示は、公布の日から三月を経過した日から施行する。</p> <p>[条を削る。]</p> <p>(経過措置) <u>第二条</u> この告示の施行前にこの告示による改正前のヒトES細胞の樹立に関する指針の規定による主務大臣の確認を受けた樹立計画は、<u>第十一条第一項</u>の規定による主務大臣の確認を受けたものとみなす。</p> <p>(指針の見直し) <u>第三条</u> 文部科学大臣及び厚生労働大臣は、ライフサイエンスにおける研究の進展、社会の動向等を勘案し、必要に応じてこの指針の規定について見直しを行うものとする。 2 前項の見直しは、総合科学技術・イノベーション会議の意見に基づき行うものとする。</p>	<p>(施行期日) 第一条 この指針は、平成二十六年十一月二十五日から施行する。</p> <p>(ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針の廃止) <u>第二条</u> ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針(平成二十一年文部科学省告示第百五十六号。次条において「旧指針」という。)は廃止する。</p> <p>(経過措置) <u>第三条</u> この指針の施行の際現に旧指針の規定により文部科学大臣の確認を受けた樹立計画又は海外分配計画については、それぞれ<u>第十六条第一項</u>又は<u>第四十四条第五項</u>の確認を受けたものとみなす。</p> <p>(指針の見直し) <u>第四条</u> 文部科学大臣及び厚生労働大臣は、ライフサイエンスにおける研究の進展、社会の動向等を勘案し、必要に応じてこの指針の規定について見直しを行うものとする。 2 前項の見直しは、総合科学技術・イノベーション会議の意見に基づき行うものとする。</p>